

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-75395

(43) 公開日 平成10年(1998) 3月17日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 N 5/325			H 0 4 N 5/325	
G 0 6 T 5/20			G 0 6 F 15/68	4 0 5

審査請求 未請求 請求項の数40 O L (全 30 頁)

(21) 出願番号 特願平8-182155

(22) 出願日 平成8年(1996) 7月11日

(31) 優先権主張番号 特願平7-252088

(32) 優先日 平7(1995) 9月29日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(31) 優先権主張番号 特願平7-323121

(32) 優先日 平7(1995) 12月12日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(31) 優先権主張番号 特願平8-169062

(32) 優先日 平8(1996) 6月28日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000005201

富士写真フイルム株式会社

神奈川県南足柄市中沼210番地

(72) 発明者 山田 雅彦

神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地 富

士写真フイルム株式会社内

(72) 発明者 伊藤 渡

神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地 富

士写真フイルム株式会社内

(74) 代理人 弁理士 柳田 征史 (外1名)

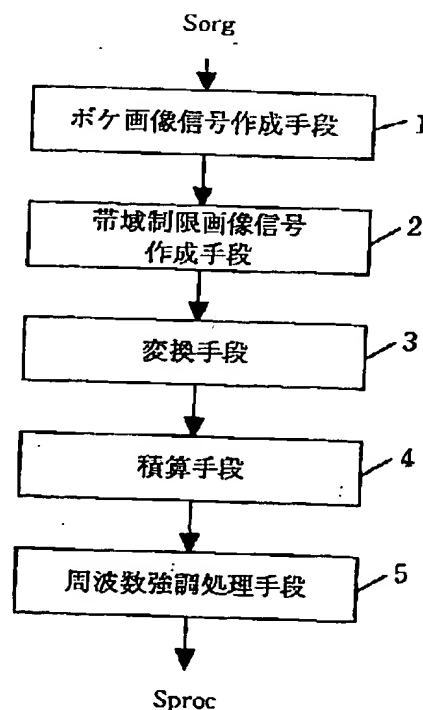
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 画像処理方法および装置

(57) 【要約】

【課題】 ボケマスク処理を行う画像処理方法および装置において、エッジ部近傍に発生するアーチファクトを防止する。

【解決手段】 ボケ画像信号作成手段1において、入力された原画像信号 Sorg に基づいて互いに周波数応答特性が異なる多重解像度のボケ画像信号 Susk ( $k = 1 \sim n$ ) を作成し、帯域制限画像信号作成手段2においてボケ画像信号 Susk に基づいて複数の帯域制限画像信号を作成する。変換手段3において、帯域制限画像信号のうち少なくとも1つの信号について、少なくとも一部を小さくするような変換処理を施し、積算手段4において、変換された帯域制限画像信号を積算して積算信号を作成する。そして、周波数強調処理手段5において、積算信号に所定の強調係数を乗じて原画像信号 Sorg と加算することにより、原画像の高周波成分が強調された処理済画像 Sproc を得る。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 原画像を表す原画像信号に、該原画像の高周波成分に関する信号を加算することにより、該原画像の高周波成分を強調する画像処理方法において、前記原画像信号に基づいて、互いに周波数応答特性が異なる複数の非鮮鋭マスク画像信号を作成し、前記原画像信号および前記複数の非鮮鋭マスク画像信号、または前記複数の非鮮鋭マスク画像信号に基づいて、前記原画像信号の複数の周波数帯域ごとの信号を表す複数の帯域制限画像信号を作成し、該各帯域制限画像信号のうち少なくとも1つの信号について、該帯域制限画像信号の少なくとも一部を小さくするような変換処理を施して複数の変換画像信号を作成し、該各変換画像信号を積算することにより前記原画像信号に加算する前記高周波成分に関する信号を得ることを特徴とする画像処理方法。

【請求項2】 前記複数の変換画像信号の作成を、前記帯域制限画像信号の絶対値が所定の閾値より大きい帯域制限画像信号について、該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするように、該各帯域制限画像信号を変換することにより行うことを特徴とする請求項1記載の画像処理方法。

【請求項3】 前記複数の変換画像信号の作成を、前記各帯域制限画像信号が所定の閾値より大きいほど該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするとともに、前記各帯域制限画像信号の絶対値が該所定の閾値よりも小さい他の閾値よりも小さいほど該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするように、該各帯域制限画像信号を変換することにより行うことを特徴とする請求項2記載の画像処理方法

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ &= \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) + f_2 (S_{us1} - S_{us2}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{usk-1} - S_{usk}) + \dots + f_N (S_{usN-1} - S_{usN}) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号  
 $S_{org}$ ：原画像信号  
 $S_{usk}(k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号  
 $f_k(k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数  
 $\beta(S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

\*方法。

【請求項4】 前記複数の変換画像信号の作成を、前記各帯域制限画像信号の周波数帯域に応じて該各帯域制限画像信号の絶対値の大きさを変化させるように、該各帯域制限画像信号を変換することにより行うことを特徴とする請求項2または3記載の画像処理方法。

【請求項5】 前記複数の変換画像信号の作成を、前記各帯域制限画像信号を、前記周波数帯域ごとに異なる複数の関数に基づいて、該帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより行うことを特徴とする請求項1記載の画像処理方法。

【請求項6】 前記変換画像信号の作成に使用される各関数が、前記帯域制限画像信号の絶対値が所定の値より大きい帯域制限画像信号については、該変換画像信号の値がほぼ一定の値となるように該帯域制限画像信号を変換する関数であり、該関数が高周波帯域を処理する関数であるほど、前記所定の値が小さい値であることを特徴とする請求項5記載の画像処理方法。

【請求項7】 前記変換画像信号の作成に使用される各関数が、該関数が低周波帯域を処理する関数であるほど、前記帯域制限画像信号の絶対値が0近傍の所定の範囲内の値である帯域制限画像信号を変換した際に得られる該変換画像信号の絶対値が小さい値であることを特徴とする請求項5または6記載の画像処理方法。

【請求項8】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

※にしたがって行うことを特徴とする請求項1から7のいずれか1項記載の画像処理方法。

【請求項9】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ &= (1/N) \cdot \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) + f_2 (S_{org} - S_{us2}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{org} - S_{usk}) + \dots + f_N (S_{org} - S_{usN}) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号  
 $S_{org}$ ：原画像信号  
 $S_{usk}(k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号  
 $f_k(k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数  
 $\beta(S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

★にしたがって行うことを特徴とする請求項1から7のいずれか1項記載の画像処理方法。

【請求項10】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

$$\begin{aligned}
 & 3 \\
 & \text{Sproc} = \text{Sorg} + \beta (\text{Sorg}) \cdot \text{Fusm} (\text{Sus1}, \text{Sus2}, \dots \text{SusN}) \\
 & \text{Fusm} (\text{Sus1}, \text{Sus2}, \dots \text{SusN}) \\
 & = \{ f_2 (\text{Sus1} - \text{Sus2}) + f_3 (\text{Sus2} - \text{Sus3}) + \dots \\
 & \quad + f_k (\text{Sus}_{k-1} - \text{Sus}_k) + \dots + f_N (\text{Sus}_{N-1} - \text{Sus}_N) \}
 \end{aligned}$$

(但し、Sproc：高周波成分が強調された画像信号

Sorg：原画像信号

Susk(k=1~N)：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k$ (k=2~N)：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta$ (Sorg)：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

\*にしたがって行うことを特徴とする請求項1から4のいずれか1項記載の画像処理方法。

【請求項11】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号

\*10 への加算を、下記の式

$$\begin{aligned}
 & \text{Sproc} = \text{Sorg} + \beta (\text{Sorg}) \cdot \text{Fusm} (\text{Sus1}, \text{Sus2}, \dots \text{SusN}) \\
 & \text{Fusm} (\text{Sus1}, \text{Sus2}, \dots \text{SusN}) \\
 & = (1/N) \cdot \{ f_2 (\text{Sus1} - \text{Sus2}) + f_3 (\text{Sus1} - \text{Sus3}) + \dots \\
 & \quad + f_k (\text{Sus1} - \text{Sus}_k) + \dots + f_N (\text{Sus1} - \text{Sus}_N) \}
 \end{aligned}$$

(但し、Sproc：高周波成分が強調された画像信号

Sorg：原画像信号

Susk(k=1~N)：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k$ (k=2~N)：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta$ (Sorg)：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことを特徴とする請求項1から4のいずれか1項記載の画像処理方法。

【請求項12】 前記複数の変換画像信号の作成を、前記各帯域制限画像信号に対して、前記強調係数に応じた変換処理を施すことにより行うことを特徴とする請求項1から11のいずれか1項記載の画像処理方法。

【請求項13】 前記変換処理が、前記各周波数帯域ごとに異なる変換処理であって、前記帯域制限画像信号の周波数帯域が低周波帯域であるほど、該帯域制限画像信号を強く抑制するような変換処理であり、前記強調係数大きいときほど、高周波帯域の帯域制限画像信号に対する抑制の度合いと、低周波帯域の帯域制限画像信号に対する抑制の度合いの差が大きいことを特※

※徴とする請求項12記載の画像処理方法。

【請求項14】 前記複数の変換画像信号の作成を、前記帯域制限画像信号を、該帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより抑制画像信号を作成し、

20 前記原画像信号および前記複数の非鮮鋭マスク画像信号に基づいて、前記抑制画像信号の作成に使用された帯域制限画像信号よりも低い周波数帯域の信号を含む補助画像信号を作成し、

該補助画像信号を、該補助画像信号の絶対値が小さいほど1に近く、大きいほど0に近い値となるように変換することにより前記抑制画像信号にそれぞれ対応する倍率信号を作成し、

30 前記抑制画像信号に、該抑制画像信号に対応する前記倍率信号を乗ずることにより行うことを特徴とする請求項1記載の画像処理方法。

【請求項15】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記積算信号の作成、および該積算信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

$$\begin{aligned}
 & \text{Sproc} = \text{Sorg} + \beta (\text{Sorg}) \cdot \text{Fusm} (\text{Sorg}, \text{Sus1}, \text{Sus2}, \dots \text{SusN}) \\
 & \text{Fusm} (\text{Sorg}, \text{Sus1}, \text{Sus2}, \dots \text{SusN}) \\
 & = \{ f_1 (\text{Sorg} - \text{Sus1}) \cdot g (\text{Sus1} - \text{Sus2}) \\
 & \quad + f_2 (\text{Sus1} - \text{Sus2}) \cdot g (\text{Sus2} - \text{Sus3}) + \dots \\
 & \quad + f_k (\text{Sus}_{k-1} - \text{Sus}_k) \cdot g (\text{Sus}_k - \text{Sus}_{k+1}) + \dots \\
 & \quad + f_N (\text{Sus}_{N-1} - \text{Sus}_N) \cdot g (\text{Sus}_N - \text{Sus}_{N+1}) \}
 \end{aligned}$$

(但し、Sproc：高周波成分が強調された画像信号

Sorg：原画像信号

Susk(k=1~N+1)：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k$ (k=1~N)：前記各帯域制限画像信号を変換して前記抑制信号を作成するための関数

$g$ ：前記各補助画像信号を変換して前記倍率信号を作成するための関数

40★ $\beta$ (Sorg)：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことを特徴とする請求項1または14記載の画像処理方法。

【請求項16】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記積算信号の作成、および該積算信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

$$\begin{aligned}
 & \text{Sproc} = \text{Sorg} + \beta (\text{Sorg}) \cdot \text{Fusm} (\text{Sorg}, \text{Sus1}, \text{Sus2}, \dots \text{SusN}) \\
 & \text{Fusm} (\text{Sorg}, \text{Sus1}, \text{Sus2}, \dots \text{SusN}) \\
 & = \{ f_1 (\text{Sorg} - \text{Sus1}) \cdot g (\text{Sorg} - \text{Sus2}) \\
 & \quad + f_2 (\text{Sus1} - \text{Sus2}) \cdot g (\text{Sorg} - \text{Sus3}) + \dots
 \end{aligned}$$

5

6

$$+ f_k(Susk-1 - Susk) \cdot g(Sorg - Susk+1) + \dots \\ + f_N(SusN-1 - SusN) \cdot g(Sorg - SusN+1) \}$$

(但し、Sproc：高周波成分が強調された画像信号

Sorg：原画像信号

Susk(k=1~N+1)：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k(k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換して前記抑制信号を作成するための関数

$g$ ：前記各補助画像信号を変換して前記倍率信号を作成するための関数

$\beta(Sorg)$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことを特徴とする請求項1または14記載の画像処理方法。

【請求項17】 前記複数の変換画像信号の作成を、変換される帯域制限画像信号である被変換帯域制限画像信号よりも低い周波数帯域の帯域制限画像信号である低周\*

$$Sproc = Sorg + \beta(Sorg) \cdot F_{sum}(Sorg, Sus1, Sus2, \dots, SusN)$$

$$F_{sum}(Sorg, Sus1, Sus2, \dots, SusN)$$

$$= [f_1\{(Sorg - Sus1) + g(Sus1 - Sus2)\}$$

$$+ f_2\{(Sus1 - Sus2) + g(Sus2 - Sus3)\} + \dots$$

$$+ f_k\{(Susk-1 - Susk) + g(Susk - Susk+1)\} + \dots$$

$$+ f_N\{(SusN-1 - SusN) + g(SusN - SusN+1)\}]$$

(但し、Sproc：高周波成分が強調された画像信号

Sorg：原画像信号

Susk(k=1~N+1)：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k(k=1 \sim N)$ ：前記各複合帯域制限画像信号を変換するための関数

$g$ ：前記各帯域制限画像信号を変換して前記補助画像信号を作成するための関数

$\beta(Sorg)$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことを特徴とする請求項1または17記載の画像処理方法。

【請求項19】 前記複数の変換画像信号の作成を、前記原画像を撮影した際の撮影部位に応じて、前記各帯域制限画像信号を変換することにより行うことを特徴とする請求項1から18のいずれか1項記載の画像処理方法。

【請求項20】 前記原画像が断層撮影により得られた流れ像を含むものであり、前記複数の非鮮鋭マスク画像信号の作成を、前記原画像信号に対して該流れ像の方向に沿う1次元非鮮鋭マスクによりマスク処理を施すことにより行うことを特徴とする請求項1から19記載の画像処理方法。

【請求項21】 原画像を表す原画像信号に、該原画像の高周波成分に関する信号を加算することにより、該原画像の高周波成分を強調する画像処理装置において、前記原画像信号に基づいて、互いに周波数応答特性が異なる複数の非鮮鋭マスク画像信号を作成する非鮮鋭マスク画像信号作成手段と、

\* 波側帯域制限画像信号を、原点をとおり該原点における傾きがほぼ0で、処理される値が大きくなるにつれて該傾きが漸増する非線形関数に基づいて変換することにより前記被変換帯域制限画像信号の補助画像信号を作成し、

該補助画像信号を前記被変換帯域制限画像信号に加算することにより複合帯域制限画像信号を作成し、

該複合帯域制限画像信号を、該複合帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより行うことを特徴とする請求項1記載の画像処理方法。

【請求項18】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記積算信号の作成、および該積算信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

\* 前記原画像信号および前記複数の非鮮鋭マスク画像信号、または前記複数の非鮮鋭マスク画像信号に基づいて、前記原画像信号の複数の周波数帯域ごとの信号を表す複数の帯域制限画像信号を作成する帯域制限画像信号作成手段と、

該各帯域制限画像信号のうち少なくとも1つの信号について、該帯域制限画像信号の少なくとも一部を小さくするような変換処理を施して複数の変換画像信号を作成する変換手段と、

該各変換画像信号を積算することにより前記原画像信号に加算する前記高周波成分に関する信号を得る周波数強調処理手段とからなることを特徴とする画像処理装置。

【請求項22】 前記変換手段が、前記複数の変換画像信号を、前記帯域制限画像信号の絶対値が所定の閾値より大きい帯域制限画像信号について、該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするように、該各帯域制限画像信号を変換することにより作成する手段であることを特徴とする請求項21記載の画像処理装置。

【請求項23】 前記変換手段が、前記複数の変換画像信号を、前記各帯域制限画像信号が所定の閾値より大きいほど該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするとともに、前記各帯域制限画像信号の絶対値が該所定の閾値よりも小さい他の閾値よりも小さいほど該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするように、該各帯域制限画像信号を変換することにより作成する手段であることを特徴とする請求項22記載の画像処理装置。

【請求項24】 前記変換手段が、前記複数の変換画像信号を、前記各帯域制限画像信号の周波数帯域に応じて

該各帯域制限画像信号の絶対値の大きさを変化させるように、該各帯域制限画像信号を変換することにより作成する手段であることを特徴とする請求項22または23記載の画像処理装置。

【請求項25】 前記変換手段が、前記複数の変換画像信号を、前記各帯域制限画像信号を、前記周波数帯域ごとに異なる複数の関数に基づいて、該帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより作成する手段であることを特徴とする請求項21記載の画像処理装置。

【請求項26】 前記変換画像信号の作成に使用される各関数が、前記帯域制限画像信号の絶対値が所定の値より大きい帯域制限画像信号については、該変換画像信号の値がほぼ一定の値となるように該帯域制限画像信号を\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) &= \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) + f_2 (S_{us1} - S_{us2}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{usk-1} - S_{usk}) + \dots + f_N (S_{usN-1} - S_{usN}) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$S_{usk} (k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

\*変換する関数であり、該関数が高周波帯域を処理する関数であるほど、前記所定の値が小さい値であることを特徴とする請求項25記載の画像処理装置。

【請求項27】 前記変換画像信号の作成に使用される各関数が、該関数が低周波帯域を処理する関数であるほど、前記帯域制限画像信号の絶対値が0近傍の所定の範囲内の値である帯域制限画像信号を変換した際に得られる該変換画像信号の絶対値が小さい値であることを特徴とする請求項25または26記載の画像処理装置。

10 【請求項28】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

※にしたがって行うことを特徴とする請求項21から27のいずれか1項記載の画像処理装置。

【請求項29】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) &= (1/N) \cdot \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) + f_2 (S_{org} - S_{us2}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{org} - S_{usk}) + \dots + f_N (S_{org} - S_{usN}) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$S_{usk} (k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

★にしたがって行うことを特徴とする請求項21から27のいずれか1項記載の画像処理装置。

【請求項30】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) &= \{ f_2 (S_{us1} - S_{us2}) + f_3 (S_{us2} - S_{us3}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{usk-1} - S_{usk}) + \dots + f_N (S_{usN-1} - S_{usN}) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$S_{usk} (k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k (k=2 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

☆にしたがって行うことを特徴とする請求項21から24のいずれか1項記載の画像処理装置。

【請求項31】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) &= (1/N) \cdot \{ f_2 (S_{us1} - S_{us2}) + f_3 (S_{us1} - S_{us3}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{us1} - S_{usk}) + \dots + f_N (S_{us1} - S_{usN}) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

◆ $S_{usk} (k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

◆50  $f_k (k=2 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta$  (Sorg) : 原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことを特徴とする請求項21から24のいずれか1項記載の画像処理装置。

【請求項32】 前記変換手段が、前記複数の変換画像信号を、前記各帯域制限画像信号に対して、前記強調係数に応じた変換処理を施すことにより作成する手段であることを特徴とする請求項21から31のいずれか1項記載の画像処理装置。

【請求項33】 前記変換処理が、前記各周波数帯域ごとに異なる変換処理であって、前記帯域制限画像信号の周波数帯域が低周波帯域であるほど、該帯域制限画像信号を強く抑制するような変換処理であり、前記強調係数が高いときほど、高周波帯域の帯域制限画像信号に対する抑制の度合いと、低周波帯域の帯域制限画像信号に対する抑制の度合いの差が大きいことを特徴とする請求項32記載の画像処理装置。

【請求項34】 前記変換手段が、前記帯域制限画像信\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) \\ &= \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) \cdot g (S_{us1} - S_{us2}) \\ &\quad + f_2 (S_{us1} - S_{us2}) \cdot g (S_{us2} - S_{us3}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{usk-1} - S_{usk}) \cdot g (S_{usk} - S_{usk+1}) + \dots \\ &\quad + f_N (S_{usN-1} - S_{usN}) \cdot g (S_{usN} - S_{usN+1}) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$  : 高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$  : 原画像信号

$S_{usk} (k=1 \sim N+1)$  : 非鮮鋭マスク画像信号

$f_k (k=1 \sim N)$  : 前記各帯域制限画像信号を変換して前記抑制信号を作成するための関数

$g$  : 前記各補助画像信号を変換して前記倍率信号を作成するための関数

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots S_{usN}) \\ &= \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) \cdot g (S_{org} - S_{us2}) \\ &\quad + f_2 (S_{us1} - S_{us2}) \cdot g (S_{org} - S_{us3}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{usk-1} - S_{usk}) \cdot g (S_{org} - S_{usk+1}) + \dots \\ &\quad + f_N (S_{usN-1} - S_{usN}) \cdot g (S_{org} - S_{usN+1}) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$  : 高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$  : 原画像信号

$S_{usk} (k=1 \sim N+1)$  : 非鮮鋭マスク画像信号

$f_k (k=1 \sim N)$  : 前記各帯域制限画像信号を変換して前記抑制信号を作成するための関数

$g$  : 前記各補助画像信号を変換して前記倍率信号を作成するための関数

$\beta$  (Sorg) : 原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことを特徴とする請求項21または34記載の画像処理装置。

【請求項37】 前記変換手段が、変換される帯域制限画像信号である被変換帯域制限画像信号よりも低い周波★50

\*号を、該帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより抑制画像信号を作成する抑制画像信号作成手段と、

前記原画像信号および前記複数の非鮮鋭マスク画像信号に基づいて、前記抑制画像信号の作成に使用された帯域制限画像信号よりも低い周波数帯域の信号を含む補助画像信号を作成する補助画像信号作成手段と、

該補助画像信号を、該補助画像信号の絶対値が小さいほど1に近く、大きいほど0に近い値となるように変換することにより前記抑制画像信号にそれぞれ対応する倍率信号を作成する倍率信号作成手段と、

前記抑制画像信号に、該抑制画像信号に対応する前記倍率信号を乗ずる乗算手段とからなることを特徴とする請求項21記載の画像処理装置。

【請求項35】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記積算信号の作成、および該積算信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

\*  $\beta$  (Sorg) : 原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことを特徴とする請求項21または34記載の画像処理装置。

【請求項36】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記積算信号の作成、および該積算信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

★数帯域の帯域制限画像信号である低周波側帯域制限画像信号を、原点をとり該原点における傾きがほぼ0で、処理される値が大きくなるにつれて該傾きが漸増する非線形関数に基づいて変換することにより前記被変換帯域制限画像信号の補助画像信号を作成する補助画像信号作成手段と、  
該補助画像信号を前記被変換帯域制限画像信号に加算することにより複合帯域制限画像信号を作成する複合帯域制限画像信号作成手段と、  
該複合帯域制限画像信号を、該複合帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより前記変換画像信号を作成する変換画像信号作成手段とからなることを特徴とする請求項21

記載の画像処理装置。

【請求項38】 前記帯域制限画像信号の作成、前記変\*

\* 換画像信号の作成、前記積算信号の作成、および該積算信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{usm} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{usm} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) &= [f_1 \{ (S_{org} - S_{us1}) + g (S_{us1} - S_{us2}) \} \\ &\quad + f_2 \{ (S_{us1} - S_{us2}) + g (S_{us2} - S_{us3}) \} + \dots \\ &\quad + f_k \{ (S_{usk-1} - S_{usk}) + g (S_{usk} - S_{usk+1}) \} + \dots \\ &\quad + f_N \{ (S_{usN-1} - S_{usN}) + g (S_{usN} - S_{usN+1}) \}] \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

※ある。これを式で表すと下記の式(1)のようになる。

$S_{org}$ ：原画像信号

10 【0003】

$S_{usk} (k=1 \sim N+1)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$$S_{proc} = S_{org} + \beta \times (S_{org} - S_{us}) \dots (1)$$

$f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各複合帯域制限画像信号を変換するための関数

( $S_{proc}$ ：周波数強調処理された信号、 $S_{org}$ ：原画像信号、 $S_{us}$ ：ボケ画像信号、 $\beta$ ：強調係数)

$g$ ：前記各帯域制限画像信号を変換して前記補助画像信号を作成するための関数

ここで、ボケ画像信号  $S_{us}$  は、例えば画像を構成する画素の1画素おきに、各画素の周囲の  $M \times N$  の範囲内の原画像信号  $S_{org}$  について、

$\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

$$S_{us} = \sum S_{org} / (M \times N) \dots (2)$$

にしたがって行うことを特徴とする請求項21または37記載の画像処理装置。

なる演算を行うことにより求められる。

【請求項39】 前記変換手段が、前記複数の変換画像信号を、前記原画像を撮影した際の撮影部位に応じて、前記各帯域制限画像信号を変換することにより作成する手段であることを特徴とする請求項21から38のいずれか1項記載の画像処理装置。

20

【0004】また、いわゆる断層撮影法(たとえば、特開昭58-67245号公報参照)により得られた放射線画像(断層撮影画像)中の観察の対象となる中央領域において、撮影対象とされた断層面以外に存在する放射線透過量の大きく変化した部分の像が記録シートの移動方向に沿って生ずる障害陰影(以下これを流れ像と称する)を除去するための画像処理方法も行われている(たとえば特開平3-276265号等)。この方法は、断層撮影により得られた放射線画像の画像信号のうち、流れ像に対応する低空間周波数成分を除去することにより、流れ像が除去された画像を生成するようにしたものである。

【請求項40】 前記原画像が断層撮影により得られた流れ像を含むものであり、前記非鮮鋭マスク画像信号作成手段が、前記複数の非鮮鋭マスク画像信号を、前記原画像信号に対して該流れ像の方向に沿う1次元非鮮鋭マスクによりマスク処理を施すことにより作成する手段であることを特徴とする請求項21から39記載の画像処理装置。

30

【0005】

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は画像信号に対して、この画像信号の高周波成分を強調する非鮮鋭マスク処理(いわゆるボケマスク処理)を行う画像処理方法および装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】画像を表す画像信号を得、この画像信号に適切な画像処理を施した後、画像を再生表示することが種々の分野で行われている。例えば、放射線画像の診断性能を向上させるために、画像信号に対して非鮮鋭マスク(以下ボケマスクという)を用いて周波数強調処理を施す方法が本出願人により提案されている(特開昭55-163472号公報、特開昭55-87953号公報等)。この周波数強調処理は、読み取った原画像信号  $S_{org}$  に、この原画像信号  $S_{org}$  から非鮮鋭マスク画像信号(以下ボケ画像信号という)  $S_{us}$  を引いたものに強調係数  $\beta$  を乗じたものを加える処理を施すもので、これにより、画像において所定の空間周波数成分を強調するようにしたもので※50

40

【発明が解決しようとする課題】上記周波数強調処理では、画像の濃度が急激に変化しているエッジ部の近傍においてボケ画像信号を作成する場合、図42に示すように  $M \times N$  のマスク内にエッジ部が含まれてしまうため、そのボケ画像信号がエッジ部の濃度に影響されてしまい、このボケ画像信号により処理が行われた画像に、オーバーシュート、アンダーシュートあるいは偽輪郭などのアーチファクトが発生し、これにより画質が低下してしまうという問題がある。これは、上述した断層撮影により画像に発生する流れ像を除去するためにボケマスク処理を行う場合にも同様に発生する問題である。

【0006】本発明は上記事情に鑑み、エッジ部近傍にアーチファクトが発生することなく、良好な処理済画像を得るボケマスク処理を行うことができる画像処理方法および装置を提供することを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明の画像処理方法および装置は、原画像を表す原画像信号に、該原画像の高周波成分に関する信号を加算することにより、該原画像の高周波成分を強調する画像処理方法において、前記原



画像信号に基づいて、互いに周波数応答特性が異なる複数の非鮮鋭マスク画像信号を作成し、前記原画像信号および前記複数の非鮮鋭マスク画像信号、または前記複数の非鮮鋭マスク画像信号に基づいて、前記原画像信号の複数の周波数帯域ごとの信号を表す複数の帯域制限画像信号を作成し、該各帯域制限画像信号のうち少なくとも1つの信号について、該帯域制限画像信号の少なくとも一部を小さくするような変換処理を施して複数の変換画像信号を作成し、該各変換画像信号を積算することにより前記原画像信号に加算する前記高周波成分に関する信号を得ることを特徴とするものである。

【0008】前記複数の変換画像信号の作成は、前記帯域制限画像信号の絶対値が所定の閾値より大きい帯域制限画像信号について、該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするように、該各帯域制限画像信号を変換することにより行うことが望ましい。この際、前記各帯域制限画像信号が所定の閾値より大きいほど該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするとともに、前記各帯域制限画像信号の絶対値が該所定の閾値よりも小さい他の閾値よりも小さいほど該帯域制限画像信号の絶対値を小さくするように、該各帯域制限画像信号を変換することにより行ってもよい。また、前記各帯域制限画像信号の周波数帯域に応じて該各帯域制限画像信号の絶対値の大きさを変化\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ F_{sum} (S_{org}, Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ &= \{ f_1 (S_{org} - Sus1) + f_2 (Sus1 - Sus2) + \dots \\ &\quad + f_k (Sus_{k-1} - Sus_k) + \dots + f_N (Sus_{N-1} - SusN) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$Sus_k (k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数※

※ $\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことが望ましい。

【0011】あるいは、下記の式

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ F_{sum} (S_{org}, Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ &= (1/N) \cdot \{ f_1 (S_{org} - Sus1) + f_2 (S_{org} - Sus2) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{org} - Sus_k) + \dots + f_N (S_{org} - SusN) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$Sus_k (k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行ってもよい。

【0012】また、前記複数の変換画像信号を、前記帯\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ F_{sum} (Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ &= \{ f_2 (Sus1 - Sus2) + f_3 (Sus2 - Sus3) + \dots \\ &\quad + f_k (Sus_{k-1} - Sus_k) + \dots + f_N (Sus_{N-1} - SusN) \} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$Sus_k (k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

☆ $f_k (k=2 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数  
 $\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係

数)

\*させるように、該各帯域制限画像信号を変換することにより行ってもよい。

【0009】また、前記複数の変換画像信号の作成は、前記各帯域制限画像信号を、前記周波数帯域ごとに異なる複数の関数に基づいて、該帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより行ってもよい。この際、前記変換画像信号の作成に使用される各関数は、前記帯域制限画像信号の絶対値が所定の値より大きい帯域制限画像信号については、該変換画像信号の値がほぼ一定の値となるように該帯域制限画像信号を変換する関数であり、該関数が高周波帯域を処理する関数であるほど、前記所定の値が小さい値であることが望ましい。さらに、前記変換画像信号の作成に使用される各関数は、該関数が低周波帯域を処理する関数であるほど、前記帯域制限画像信号の絶対値が0近傍の所定の範囲内の値である帯域制限画像信号を変換した際に得られる該変換画像信号の絶対値が小さい値であることが望ましい。

【0010】なお、前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記高周波成分に関する信号の作成、および該高周波成分に関する信号の前記原画像信号への加算は、具体的には、下記の式



15

にしたがって行ってもよい。

【0013】あるいは、同様に、前記複数の変換画像信号を、前記帯域制限画像信号の絶対値が所定の閾値より大きい帯域制限画像信号について、該帯域制限画像信号\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta(S_{org}) \cdot F_{usm}(Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ F_{usm}(Sus1, Sus2, \dots, SusN) &= (1/N) \cdot \{f_2(Sus1 - Sus2) + f_3(Sus1 - Sus3) + \dots \\ &\quad + f_k(Sus1 - Susk) + \dots + f_N(Sus1 - SusN)\} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$Susk(k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k(k=2 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta(S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行ってもよい。

【0014】さらには、上記の変換画像信号の作成は、全て、前記各帯域制限画像信号に対して、前記強調係数に応じた変換処理を施すことにより行ってもよい。この際、この変換処理は、前記各周波数帯域ごとに異なる変換処理であって、前記帯域制限画像信号の周波数帯域が低周波帯域であるほど、該帯域制限画像信号を強く抑制するような変換処理であり、前記強調係数が多いときほど、高周波帯域の帯域制限画像信号に対する抑制の度合いと、低周波帯域の帯域制限画像信号に対する抑制の度合いの差が大きいことが望ましい。

※

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta(S_{org}) \cdot F_{usm}(S_{org}, Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ F_{usm}(S_{org}, Sus1, Sus2, \dots, SusN) &= \{f_1(S_{org} - Sus1) \cdot g(Sus1 - Sus2) \\ &\quad + f_2(Sus1 - Sus2) \cdot g(Sus2 - Sus3) + \dots \\ &\quad + f_k(Susk-1 - Susk) \cdot g(Susk - Susk+1) + \dots \\ &\quad + f_N(SusN-1 - SusN) \cdot g(SusN - SusN+1)\} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$Susk(k=1 \sim N+1)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k(k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換して前記抑制信号を作成するための関数

$g$ ：前記各補助画像信号を変換して前記倍率信号を作成★

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta(S_{org}) \cdot F_{usm}(S_{org}, Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ F_{usm}(S_{org}, Sus1, Sus2, \dots, SusN) &= \{f_1(S_{org} - Sus1) \cdot g(S_{org} - Sus2) \\ &\quad + f_2(Sus1 - Sus2) \cdot g(S_{org} - Sus3) + \dots \\ &\quad + f_k(Susk-1 - Susk) \cdot g(S_{org} - Susk+1) + \dots \\ &\quad + f_N(SusN-1 - SusN) \cdot g(S_{org} - SusN+1)\} \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$Susk(k=1 \sim N+1)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k(k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換して前記抑制信号を作成するための関数

$g$ ：前記各補助画像信号を変換して前記倍率信号を作成するための関数

16

\*の絶対値を小さくするように、該各帯域制限画像信号を変換することにより作成する場合には、上記処理を下記の式

※【0015】さらに、前記複数の変換画像信号の作成は、前記帯域制限画像信号を、該帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより抑制画像信号を作成し、前記原画像信号および前記複数の非鮮鋭マスク画像信号に基づいて、前記抑制画像信号の作成に使用された帯域制限画像信号よりも低い周波数帯域の信号を含む補助画像信号を作成し、該補助画像信号を、該補助画像信号の絶対値が小さいほど1に近く、大きいほど0に近い値となるように変換することにより前記抑制画像信号にそれぞれ対応する倍率信号を作成し、前記抑制画像信号に、該抑制画像信号に対応する前記倍率信号を乗ずることにより行ってもよい。

【0016】これは、具体的には、前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記積算信号の作成、および該積算信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

★するための関数

$\beta(S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことが望ましい。

【0017】あるいは、下記の式

☆ $\beta(S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行ってもよい。

【0018】さらに、前記複数の変換画像信号の作成は、変換される帯域制限画像信号である被変換帯域制限画像信号よりも低い周波数帯域の帯域制限画像信号である低周波側帯域制限画像信号を、原点をとおり該原点に

17

おける傾きがほぼ0で、処理される値が大きくなるにつれて該傾きが漸増する非線形関数に基づいて変換することにより前記被変換帯域制限画像信号の補助画像信号を作成し、該補助画像信号を前記被変換帯域制限画像信号に加算することにより複合帯域制限画像信号を作成し、該複合帯域制限画像信号を、該複合帯域制限画像信号の\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta(S_{org}) \cdot F_{usm}(S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{usm}(S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) &= [f_1\{(S_{org} - S_{us1}) + g(S_{us1} - S_{us2})\} \\ &\quad + f_2\{(S_{us1} - S_{us2}) + g(S_{us2} - S_{us3})\} + \dots \\ &\quad + f_k\{(S_{usk-1} - S_{usk}) + g(S_{usk} - S_{usk+1})\} + \dots \\ &\quad + f_N\{(S_{usN-1} - S_{usN}) + g(S_{usN} - S_{usN+1})\}] \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$S_{usk}(k=1 \sim N+1)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

$f_k(k=1 \sim N)$ ：前記各複合帯域制限画像信号を変換するための関数

$g$ ：前記各帯域制限画像信号を変換して前記補助画像信号を作成するための関数

$\beta(S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

にしたがって行うことが望ましい。

【0020】また、上記変換画像信号の作成は、全て、前記原画像を撮影した際の撮影部位に応じて、前記各帯域制限画像信号を変換することにより行うことが望ましい。

【0021】さらに、前記原画像が断層撮影により得られた流れ像を含むものである場合には、前記複数の非鮮鋭マスク画像信号の作成を、前記原画像信号に対して該流れ像の方向に沿う1次元非鮮鋭マスクによりマスク処

理を施すことにより行うことが望ましい。

【0022】

【発明の効果】本発明による画像処理方法および装置は、互いに周波数応答特性が異なる複数の非鮮鋭マスク画像信号を作成し、この非鮮鋭マスク画像信号から原画像信号の複数の周波数帯域ごとの信号を表す複数の帯域制限画像信号を作成する。この各帯域制限画像信号は、複数の非鮮鋭マスク画像信号の周波数特性に応じて、原画像をこの周波数特性に対応した周波数帯域の信号として表すものとなる。ここで、この帯域制限画像信号は、原画像の濃度変化が比較的小さいいわゆる平坦部においては、各周波数帯域において値は小さくなるものである。これに対して、濃度が急激に変化するエッジ部近傍においては、帯域制限画像信号が比較的低周波数帯域である場合、すなわち非鮮鋭マスク画像信号を得る際の非鮮鋭マスクのサイズが比較的大きい場合は、そのエッジ部近傍の画素については、非鮮鋭マスクにエッジ部が含まれてしまうため、帯域制限画像信号がエッジ部の影響を受けて信号値の絶対値が比較的大きなものとなる。このように、本来エッジ部でない部分がエッジ部の濃度値※50

18

\*絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換することにより行ってもよい。

【0019】具体的には、前記帯域制限画像信号の作成、前記変換画像信号の作成、前記積算信号の作成、および該積算信号の前記原画像信号への加算を、下記の式

※の影響を受けることにより、画像処理を行うことにより得られた画像のエッジ部にはオーバーシュート、アンダーシュートなどのアーチファクトが発生してしまう。

【0023】本発明はこの点に鑑みてなされたものであり、各帯域制限画像信号のうち少なくとも1つの信号について、該帯域制限画像信号の少なくとも一部を小さくするような変換処理を施して、この変換された各帯域制限画像信号を積算することにより、原画像信号に加算するための高周波成分に関する信号を得るようにしたものである。このため、比較的信号値の絶対値の大きい帯域制限画像信号は、原画像信号に加算するための高周波成分に関する信号に対する影響力が小さくなり実質的非鮮鋭マスクのサイズを小さくしたものと同様の信号となる。そしてこれにより、濃度が急激に変化するエッジ部近傍においても、アーチファクトの原因となる信号は影響力が弱められるため、処理を施すことにより得られる画像をアーチファクトのない良好なものとする事ができる。

【0024】この際、帯域制限画像信号の変換方法として、帯域制限画像信号の絶対値が所定の閾値よりも大きい場合に、この絶対値が小さくなるように帯域制限画像信号を変換することにより、特に大きな信号の影響力を弱めることができる。あるいは帯域制限画像信号の絶対値が所定の閾値よりも小さい他の閾値よりも小さいほどこの帯域制限画像信号の絶対値を小さくするように補正する方法を用いれば、画像中においてノイズと見なせるような信号値の絶対値の小さい成分のレスポンスを小さくすることができ、これにより得られる画像のノイズを低減することができる。また、帯域制限画像信号の周波数帯域に応じて帯域制限画像信号の絶対値を変化させるように変換することにより、周波数帯域に応じた強調処理を行うことも可能となる。

【0025】また、閾値よりも大きいかな否かによらず、周波数帯域に応じて異なる非線形関数によって変換処理を施せば、より適切な処理を施すことが可能となり、これにより、画像処理により生成される処理済画像信号の全体の周波数特性を自在にコントロールすることもできる。これは、上記アーチファクトのみならず、周波数帯

域の境界に発生する階段状のアーチファクトをも抑制するという効果を有する。

【0026】あるいは、変換する帯域制限画像信号よりも低い周波数帯域の画像信号を用いて、2種類の信号を加算あるいは乗算するなどして変換画像信号を作成することにより、上記階段状のアーチファクトをさらに抑制し、より滑らかな画像信号を作成して良好な処理済画像を得ることができる。さらに、原画像を得た際の撮影部位に応じてこのような変換を行うことにより、各撮影部位に適した高周波成分の強調を行うことができる。

【0027】また、上述したように断層撮影を行うことにより得られる流れ像を除去するために、非鮮鋭マスク処理を行う方法が提案されているが（特開平3-276265号）、この場合においても、急激に濃度が変化するエッジ部の近傍においてアーチファクトが発生するという問題がある。この場合、流れ像を除去するためには非鮮鋭マスクを1次元として非鮮鋭マスク画像信号を得て非鮮鋭マスク処理を行うものであるが、この非鮮鋭マスク画像信号を得る際に、互いに周波数応答特性が異なる複数の非鮮鋭マスク画像信号を得、これに基づいて上述したような帯域制限画像信号を得、この帯域制限画像信号の絶対値が比較的大きい場合は、その絶対値が小さくなるように変換してその後の処理を行うことにより、流れ像を除去するとともにアーチファクトのない良好な画像を得ることができる。

【0028】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。図1は本発明による画像処理装置の概念を表す図である。図1に示すように本発明による画像処理装置は、入力された原画像信号 Sorg に基づいて互いに周波数応答特性が異なる多重解像度のボケ画像信号 Susk（ $k=1\sim n$ ）を作成するボケ画像信号作成手段1と、ボケ画像信号作成手段1において作成されたボケ画像信号 Susk に基づいて複数の帯域制限画像信号を作成する帯域制限画像信号作成手段2と、帯域制限画像信号作成手段2において作成された複数の帯域制限画像信号のうち少なくとも1つの信号について、該帯域制限画像信号の少なくとも一部を小さくするような変換処理を施す変換手段3と、変換された帯域制限画像信号を積算して積算信号を作成する積算手段4と、積算信号に所定の強調係数を乗じて原画像信号 Sorg と加算することにより、原画像の高周波成分が強調された処理済画像 Sproc を得る周波数強調処理手段5とからなる。

【0029】はじめに、ボケ画像信号作成手段1において行われる処理について説明する。図2はボケ画像信号作成手段1の処理を示すブロック図である。図2に示すように原画像を表すデジタルの原画像信号 Sorg がフィルタリング処理手段10においてローパスフィルタによりフィルタリングされる。このローパスフィルタとしては、例えば図3に示すような  $5\times 1$  のグリッド状の1次

元ガウス分布に略対応したフィルタFを用いることができる。このフィルタFは下記の式(3)

【0030】

【数1】

$$f(t) = e^{-\frac{t^2}{2\sigma^2}} \quad \dots(3)$$

【0031】において、 $\sigma=1$ としたものである。ここで、フィルタFとしてガウス信号を用いるのは、ガウス信号は周波数空間および実空間の双方において、局在性がよいためである。

【0032】そして、このフィルタFにより原画像の画素のx方向およびy方向に対してフィルタリング処理を施すことにより、原画像信号 Sorg 全体に対してフィルタリング処理が施される。

【0033】フィルタリング処理手段10においては、このようなフィルタFにより以下のようにしてフィルタリング処理が施される。図4はフィルタリング処理の詳細を表す図である。図4に示すように、原画像信号 Sorg に対し、図3に示すフィルタFにより1画素おきにフィルタリング処理が施される。そしてこのフィルタリング処理により、フィルタリング処理画像信号  $B_1$  が得られる。このフィルタリング処理画像信号  $B_1$  は、原画像に対するサイズが  $1/4$ （x方向、y方向にそれぞれ  $1/2$ ）となっている。次いで、再度フィルタFによりフィルタリング処理画像信号  $B_1$  に対して1画素おきにフィルタリング処理が施される。そしてこのようなフィルタFによるフィルタリング処理が繰り返し施されることにより、 $n$ 個のフィルタリング処理画像信号  $B_k$ （ $k=1\sim n$ ）が得られる。このフィルタリング処理画像信号  $B_k$  は、原画像に対してサイズが  $1/2^{2k}$  となっている。この際、フィルタリング処理画像信号  $B_k$  の周波数特性は図5に示されるようなものとなる。図5に示されるようにフィルタリング処理画像信号  $B_k$  のレスポンスは  $k$  が大きいほど高周波成分が除去されたものとなっている（但し、図5においては  $k=1\sim 3$  としている）。

【0034】なお、上記実施の形態においては、図3に示す1次元フィルタFにより、原画像のx方向およびy方向に対してフィルタリング処理が施されるようになっているが、図6に示すような  $5\times 5$  の2次元フィルタにより原画像信号 Sorg およびフィルタリング処理画像信号に対して一度にフィルタリング処理が施されるようにしてもよい。

【0035】次いで、このようにして得られたフィルタリング処理画像信号  $B_k$  に対して図2に示される補間演算処理手段11において補間演算処理が施され、これにより原画像と同一の大きさの多重解像度のボケ画像が得られる。以下この補間演算処理について説明する。

【0036】補間演算の方法としては、Bスプラインによる方法など種々の方法が挙げられるが、本発明による

## 2.1

実施の形態においては、ローパスフィルタとしてガウス信号に基づくフィルタFを用いているため、補間演算を行うための補間係数としてもガウス信号を用いるものとする。ここで、ガウス信号を用いた補間係数とは、下記の式(4)

【0037】

【数2】

$$I(t) = 2 \cdot \sigma \cdot e^{-\frac{t^2}{2\sigma^2}} \quad \dots(4)$$

【0038】において、 $\sigma = 2^{k-1}$ と近似したものを用いる。

【0039】フィルタリング処理画像信号B<sub>1</sub>を補間する際には、 $k=1$ であるため $\sigma=1$ となる。上記式

(4)において、 $\sigma=1$ としたときの補間を行うためのフィルタは、図7に示すように5×1の1次元フィルタとなる。まずフィルタリング処理画像信号B<sub>1</sub>に対して1画素おきに値が0の画素を1つずつ補間することによりフィルタリング処理画像信号B<sub>1</sub>が原画像と同一のサイズに拡大される。このように値が0の画素が補間されたフィルタリング処理画像信号B<sub>1</sub>を1次元的に図8に示す。そして、この補間されたフィルタリング処理画像信号B<sub>1</sub>に対して上述した図7に示すフィルタF<sub>1</sub>によりフィルタリング処理が施される。

【0040】ここで、図7に示すフィルタF<sub>1</sub>は5×1のフィルタであるが、図8に示すようにフィルタリング処理画像信号B<sub>1</sub>は1画素おきに値が0の画素が補間されている。したがって、フィルタリング処理画像B<sub>1</sub>に対してフィルタF<sub>1</sub>により施されるフィルタリング処理は、実質的には2×1のフィルタ(0.5, 0.5)および3×1のフィルタ(0.1, 0.8, 0.1)の2種類のフィルタにより、施されるフィルタリング処理と等価なものとなる。そしてこのフィルタリング処理により、原画像信号Sorgと同一データ数、すなわち原画像と同一サイズのボケ画像の信号Sus<sub>1</sub>が得られる。

【0041】次いで、フィルタリング処理画像信号B<sub>2</sub>に対してフィルタリング処理が施される。フィルタリング処理画像信号B<sub>2</sub>を補間する際には、 $k=2$ であるため、 $\sigma=2$ となる。上記式(4)において、 $\sigma=2$ としたときの補間を行うためのフィルタは、図9に示すように11×1の1次元フィルタとなる。そして、まずフィルタリング処理画像信号B<sub>2</sub>に対して図11のように1画素おきに値が0の画素を3つずつ補間することによりフィルタリング処理画像信号B<sub>2</sub>が原画像と同一のサイズに拡大される。値が0の画素が補間されたこのフィルタリング処理画像信号B<sub>2</sub>に対して上述した図9に示すフィルタF<sub>2</sub>によるフィルタリング処理が施される。

【0042】ここで、図9に示すフィルタF<sub>2</sub>は11×1のフィルタであるが、図10に示すようにフィルタリング処理画像信号B<sub>2</sub>は1画素おきに値が0の画素が3つ

## 2.2

ずつ補間されている。したがって、フィルタリング処理画像信号B<sub>2</sub>に対してフィルタF<sub>2</sub>により施されるフィルタリング処理は、実質的には2×1のフィルタ(0.5, 0.5)および3×1のフィルタ(0.3, 0.65, 0.05)、(0.13, 0.74, 0.13)および(0.05, 0.65, 0.3)の4種類のフィルタにより施されるフィルタリング処理と等価なものとなる。そしてこのフィルタリング処理により、原画像信号Sorgと同一データ数のボケ画像信号Sus<sub>2</sub>が得られる。

10 【0043】そしてこのようなフィルタリング処理が全てのフィルタリング処理画像信号B<sub>k</sub>に対して行われる。フィルタリング処理画像信号B<sub>k</sub>を補間する際には、上記式(4)に基づいて、 $3 \times 2^k - 1$ の長さのフィルタを作成し、フィルタリング処理画像信号B<sub>k</sub>の各画素の間に値が0の画素を $2^k - 1$ 個ずつ補間することにより、原画像と同一サイズに拡大する。この値が0の画素が補間されたフィルタリング処理画像信号B<sub>k</sub>に対して $3 \times 2^k - 1$ の長さのフィルタにより、フィルタリング処理が行われる。

20 【0044】ここで、この $3 \times 2^k - 1$ の長さのフィルタにより施されるフィルタリング処理は、 $2^k$ 周期で長さが2または3のフィルタにより施されるフィルタリング処理と等価なものとなる。そしてこのフィルタリング処理により、n個のボケ画像信号Sus<sub>k</sub>が得られる。このボケ画像信号Sus<sub>k</sub>を可視像として表すと、結果としてそれぞれ解像度が異なる、すなわち周波数応答特性が異なる多重解像度のボケ画像となる。このように、フィルタは長くなるものの、実質的には長さが2または3のフィルタによりフィルタリング処理を施していることと同様であるため、演算量は、フィルタが長くなろうともそれほど多くはならないものである。このため、演算量を減らして、多重解像度のボケ画像信号Sus<sub>k</sub>を高速に作成することが可能となる。

30 【0045】なお、本実施の形態においては、長さが $3 \times 2^k - 1$ の1次元のフィルタにより画像のx方向およびy方向にフィルタリング処理が施されるようになっていくが、予め2次元状のフィルタを作成しておき、このフィルタによりフィルタリング処理画像に対するフィルタリング処理を施すことにより、ボケ画像信号Sus<sub>k</sub>が得られるようにしてもよい。この場合、フィルタリング処理画像に対して、補間演算を行うためのフィルタリング処理に使用するフィルタは、 $(3 \times 2^k - 1) \times (3 \times 2^k - 1)$ のフィルタとなるが、上述した1次元のフィルタを用いる場合と同様に、これは $2^k$ 周期で2×2または3×3のフィルタにより施されるフィルタリング処理と等価なものとなり、上述した1次元フィルタを用いる場合と同様に、フィルタのサイズが大きくなって

50 【0046】このようにして得られたボケ画像信号Sus

## 23

kの周波数特性を図11に示す。図11に示すように、ボケ画像信号  $S_{usk}$  のkの値が大きくなるほど、原画像信号  $S_{org}$  の高周波成分が除去された信号となる。

【0047】図12は、上記図2のボケ画像信号作成手段を含む本発明の画像処理装置の一実施の形態について、その全体の構成を示す図であるが、この図に示されるように、ボケ画像信号作成手段1において生成された各ボケ画像信号は、次に、帯域制限画像信号作成手段2および変換手段3において処理される。図12に示すように、まず、原画像信号  $S_{org}$  およびボケ画像信号作成手段1において作成された複数のボケ画像信号  $S_{usk}$  に基づいて帯域制限画像信号が作成されるが、この帯域制限画像信号は減算器21により、互いに隣接する周波数帯域同士のボケ画像信号  $S_{usk}$  の減算を行うことにより得られる。すなわち、 $S_{org} - S_{us1}$ 、 $S_{us1} - S_{us2}$ 、...、 $S_{usN-1} - S_{usN}$  を順次計算することにより、複数の帯域制限画像信号が求められる。この帯域制限画像信号の周波数特性を図13に示す。図13に示すように、帯域制限画像信号はボケ画像信号  $S_{usk}$  のkの値が大きくなるほど、原画像信号  $S_{org}$  の低周波数成分の帯域を表す信号となる。

【0048】次いで、変換手段3において、このようにして求められた帯域制限画像信号をこの帯域制限画像信\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{usm} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{usm} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) &= \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) + f_2 (S_{us1} - S_{us2}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{usk-1} - S_{usk}) + \dots + f_N (S_{usN-1} - S_{usN}) \} \dots (5) \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号  
 $S_{org}$ ：原画像信号  
 $S_{usk} (k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号  
 $f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数  
 $\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

このようにして得られた処理済画像信号  $S_{proc}$  は、例えば図15に示すような周波数応答特性を有するものとなる。すなわち、上述した帯域制限画像信号は、原画像の濃度変化が比較的小さいいわゆる平坦部においては、各周波数帯域において信号値の絶対値は小さくなるものである。これに対して、濃度が急激に変化するエッジ部近傍においては、帯域制限画像信号が比較的低周波数帯域である場合、すなわちボケ画像信号  $S_{usk}$  を得る際のマスクのサイズが比較的大きい場合は、図42に示すように、そのエッジ部近傍の画素についておかれたマスクにエッジ部が含まれてしまうため、帯域制限画像信号がエッジ部の影響を受けて信号値の絶対値が比較的大きなものとなる。このように、本来エッジ部でない部分がエッジ部の濃度値の影響を受けることにより、画像処理を行うことにより得られた画像のエッジ部にはオーバーシュート、アンダーシュートなどのアーチファクトが発生し※50

## 24

\*号の信号に応じて変換する。この変換は変換器22において、例えば図14に示すような関数  $f$  により行う。この関数  $f$  は、帯域制限画像信号の絶対値が閾値  $Th1$  よりも小さい場合は傾きが1であり、閾値  $Th1$  よりも大きい場合は傾きが1よりも小さくなるような関数である。この関数は、各帯域制限画像信号において同一のものであってもよいが、各信号ごとに異なるものであってもよい。

【0049】このような関数  $f$  により変換された帯域制限画像信号は、上述した積算手段4および周波数強調処理手段5を内包する演算器23に入力される。この演算器23においては下記のような処理が行われる。まず、上述したように関数  $f$  により変換された帯域制限画像信号は積算される。そしてこの積算信号が求められると、周波数強調処理手段5において原画像信号  $S_{org}$  の値に応じた強調度  $\beta$  が乗じられ、さらにこの強調度  $\beta$  が乗じられた積算信号が原画像信号  $S_{org}$  と加算されて処理済画像信号  $S_{proc}$  が得られる。

【0050】以上の帯域制限画像信号作成手段2、変換手段3、積算手段4および周波数強調処理手段5において行われる処理を下記の式(5)に示す。

【0051】

※てしまう。

30 【0052】そこで、帯域制限画像信号の絶対値が閾値  $Th1$  よりも大きい場合に、上述した関数  $f$  によりこの絶対値が小さくなるように帯域制限画像信号を変換し、この変換された各帯域制限画像信号を積算し、さらに所定の強調度で強調することにより、原画像信号  $S_{org}$  に加算するための高周波成分に関する信号を得るようにしたものである。

40 【0053】このため、図15に示すように、エッジ部が存在しない平坦部においては処理済画像信号  $S_{proc}$  の周波数特性は実線で示すようなものとなるが、エッジ部近傍の領域においては、処理済画像信号  $S_{proc}$  は図15の破線に示すように比較的低周波数帯域のレスポンスが低下されたような特性を有するものとなる。これは、エッジ部近傍の領域においては、ボケ画像信号(式(1))における  $S_{us}$  を得る際のマスクが実際のマスクよりも小さくされたことと同一の効果を奏するものである。

【0054】したがって、エッジ部近傍の領域に対応する比較的信号値の絶対値の大きい帯域制限画像信号は、原画像信号  $S_{org}$  に加算するための高周波成分に関する信号に対する影響力が小さくなる。このため、濃度が急激に変化するエッジ部近傍においても、アーチファクト

25

の原因となる信号は影響力が弱められるため、処理を施すことにより得られる画像をアーチファクトのない良好な画像とすることができる。

【0055】なお、上記実施の形態においては、上記式(5)により処理済画像信号  $S_{proc}$  を得るようにしているが、下記式(6)により処理済画像信号  $S_{proc}$  を得るようにしてもよい。式(5)と式(6)とで異なるのは、帯域制限画像信号を得る際に、式(5)においては隣接する周波数帯域同士で減算を行っているが、式(6)においては、全ての周波数帯域のボケ画像信号  $S_{usk}$  と、原画像信号  $S_{org}$  とで減算処理を行っている点が異なるものである。式(6)により得られる処理済画像信号  $S_{proc}$  の周波数特性を図16に示す。図16に示すようにエッジ部が存在しない平坦部においては、処理済画像信号  $S_{proc}$  の周波数特性は実線で示すようなものと\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta(S_{org}) \cdot F_{usm}(S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{usm}(S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) &= (1/N) \cdot \{ f_1(S_{org} - S_{us1}) + f_2(S_{org} - S_{us2}) + \dots \\ &\quad + f_k(S_{org} - S_{usk}) + \dots + f_N(S_{org} - S_{usN}) \} \end{aligned}$$

... (6)

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号  
 $S_{org}$ ：原画像信号

$S_{usk}(k=1 \sim N)$ ：ボケ画像信号

$f_k(k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数  
 $\beta(S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数)

さらに、上述した実施の形態においては、帯域制限画像信号を変換するための関数を図14に示すように、閾値  $T_{h1}$  よりも絶対値が大きい場合に、この絶対値を小さくするような関数を用いているが、例えば図17に示すように、帯域制限画像信号の絶対値が閾値  $T_{h1}$  よりも大きい場合に、この絶対値を小さくするとともに、閾値  $T_{h2}$  よりも小さい場合に、絶対値を小さくするような関数を用いるようにしてもよい。

【0057】このように、帯域制限画像信号の絶対値が閾値  $T_{h1}$  よりも小さい閾値  $T_{h2}$  よりも小さいほど、この帯域制限画像信号の絶対値を小さくするように補正することにより、画像中においてノイズと見なせるような信号値の絶対値の小さい成分のレスポンスを小さくすることができ、これにより処理済画像のノイズを低減することができる。

【0058】また、上述した実施の形態においては、上※

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta(S_{org}) \cdot F_{usm}(S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{usm}(S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) &= (1/N) \cdot \{ f_2(S_{us1} - S_{us2}) + f_3(S_{us1} - S_{us3}) + \dots \\ &\quad + f_k(S_{us1} - S_{usk}) + \dots + f_N(S_{us1} - S_{usN}) \} \end{aligned}$$

... (7)

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号

$S_{org}$ ：原画像信号

$S_{usk}(k=1 \sim N)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

\* なるが、エッジ部近傍の領域においては、処理済画像信号  $S_{proc}$  は図16の破線に示すように比較的低い周波数帯域のレスポンスが低下されたような特性を有するものとなる。これは、エッジ部近傍の領域においては、ボケ画像信号  $S_{usk}$  を得る際のマスクが実際のマスクよりも小さくされたことと同一の効果を奏するものである。なお、図15と比較すると、図16の場合は全周波数帯域に亘ってレスポンスが低下したものとなっている。このため、エッジ部の近傍でない平坦部においてもレスポンスが低下したものとなっている。このため、式(6)にしたがって、処理済画像信号  $S_{proc}$  を求める方が平坦部のレスポンスは低下されることなくエッジ部近傍のみのレスポンスが低下されるため、より好ましいものである。

【0056】

※記式(5)または式(6)により処理済画像信号  $S_{proc}$  を得るようにしているが、下記式(7)により処理済画像信号  $S_{proc}$  を得るようにしてもよい。上述した式(6)においては、帯域制限画像信号を得るために、原画像信号  $S_{org}$  からボケ画像信号  $S_{usk}$  を減算するようにしているが、式(7)においては、ボケ画像信号  $S_{us1}$  からボケ画像信号  $S_{usk}(k=2 \sim N)$  を減算するようにしている点が異なるものである。式(7)により得られる処理済画像信号  $S_{proc}$  の周波数特性を図18に示す。図18に示すように式(7)により得られる処理済画像信号  $S_{proc}$  の周波数特性は高周波成分が除去された特性を有するものとなっている。

【0059】式(6)により処理を行うものにおいては、画像中のノイズと見なせる高周波成分をも強調してしまうため、得られる処理済画像にノイズが目立つものになってしまうことがある。これに対して式(7)により処理を行うものにおいては、図18に示すように処理済画像信号  $S_{proc}$  の高周波成分が除去されているため、ノイズが強調されることがなくなりより高画質の処理済画像を得ることができる。

【0060】

★  $f_k(k=2 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換する関数

$\beta(S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係

★50 数)



27

さらに、下記の式(8)により処理を行うようにしてもよい。上述した式(5)においては、帯域制限画像信号( $S_{org} - S_{us1}$ )を用いているのに対して式(8)においては、帯域制限画像信号( $S_{org} - S_{us1}$ )を用いないものである。これにより図13における最高周波数成\*

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta(S_{org}) \cdot F_{usm}(S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{usm}(S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) &= \{f_2(S_{us1} - S_{us2}) + f_3(S_{us2} - S_{us3}) + \dots \\ &\quad + f_k(S_{usk-1} - S_{usk}) + \dots + f_N(S_{usN-1} - S_{usN})\} \end{aligned}$$

... (8)

(但し、 $S_{proc}$ : 高周波成分が強調された画像信号  
 $S_{org}$ : 原画像信号

$S_{usk}(k=1 \sim N)$ : 非鮮鋭マスク画像信号

$f_k(k=2 \sim N)$ : 前記各帯域制限画像信号を変換する関数  
 $\beta(S_{org})$ : 原画像信号に基づいて定められる強調係数)

なお、原画像を得る際の撮影部位によって、診断に必要な周波数帯域は異なるものである。例えば、肺と胃の二重造影の画像とにおいて、肺は比較的低周波成分を強調するのが好ましく、胃は胃壁のヒダの観察を行うため比較的高周波成分を強調することが好ましい。一方、骨や人工骨等の金属を含む画像においては、これらのエッジ部分が強調すぎることによるアーチファクトを防止する必要があるが、例えばマンモグラフィのように骨などのエッジ部分を含まない画像に対しては、アーチファクトは発生しにくく、骨を含む画像と同様に周波数成分の強調を行うと、観察に必要な部分が逆に見にくくなるという問題もある。したがって、原画像を得る際の撮影部位、あるいは帯域制限画像信号の周波数帯域に応じて図14に示す関数 $f$ の形状を変化させることが望ましい。

【0062】例えば、図19に示すように、骨を含む画像においては関数 $f$ をBのようにして帯域制限画像信号の高周波成分を抑制してエッジ部分にアーチファクトを発生しにくくすることが好ましい。逆に、マンモグラフィのように骨を含まない画像においては関数 $f$ をAのようにして高周波成分をも強調し、略全周波数帯域に亘って帯域制限画像信号の絶対値が大きくなるように変換処理を行うことが好ましい。

【0063】また、胸部画像の場合、全周波数帯域に亘って帯域制限画像信号が強調されることが好ましいため、帯域制限画像信号の周波数帯域に応じて関数 $f$ を図20に示すように変化させることが好ましい。一方、胃の二重造影の場合は帯域制限画像信号の高周波成分を強調し、低周波成分を抑制した方が好ましいため、帯域制限画像信号の周波数帯域に応じて関数 $f$ を図21に示すように変化させることが好ましい。帯域制限画像信号を図20に示す関数 $f$ にしたがって変換することにより得られた処理済画像信号 $S_{proc}$ の周波数特性を図22に、帯域制限画像信号を図21に示す関数 $f$ にしたがって変換することにより得られた処理済画像信号 $S_{proc}$ の周波数特性を※50

28

\*分が除去されることとなるため、式(7)により処理を行うものと同様に、処理済画像信号 $S_{proc}$ の高周波成分が除去されてノイズが強調されることがなくなりより高画質の処理済画像を得ることができる。

【0061】

※図23にそれぞれ示す。図22の胸部の撮影の場合は、略全周波数帯域に亘ってレスポンスが強調されているのに対して、図23の胃の二重造影の場合は、高周波帯域のレスポンスが他の周波数帯域よりも大きく強調されることが分かる。

【0064】このように、胸部画像の場合に全周波数帯域に亘ってレスポンスが強調されるように処理を施すことにより、肺野がより観察し易いものとなり、胃の二重造影において高周波帯域のレスポンスが強調されるように処理を施すことにより、胃壁のヒダがより観察し易いものとなる。そしてこのように、帯域制限画像信号の周波数帯域に応じてあるいは撮影部位に応じて帯域制限画像信号の絶対値を変化させるように処理を行うことにより、撮影部位あるいは周波数帯域に応じたより観察に適した画像を得ることができるとなる。

【0065】ここで、上記変換手段3における帯域制限画像信号の変換は、上述の閾値 $Th1$ に制限されことなく、周波数帯域ごとに異なる複数の関数 $f_1 \sim f_N$ に基づいて、帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる該絶対値以下の値となるように変換してもよい。この関数 $f_1 \sim f_N$ は、画像処理の目的に応じて適切な関数の組み合わせを設定することが望ましい。

【0066】この閾値にとらわれない実施の形態においては、得られる処理済画像信号 $S_{proc}$ の周波数特性は、変換手段3において使用される関数を周波数帯域ごとに異ならしめることにより任意の周波数特性になるように調整可能である。したがって、前記各装置においてそれぞれ処理対象である画像に求められる条件に応じて、処理済画像信号 $S_{proc}$ の周波数特性を調整することが可能となる。

【0067】以下、前記関数を周波数帯域ごとに異ならしめることにより得られる効果について説明する。図28は、関数 $f_1 \sim f_N$ を全て同一の関数とする、すなわち全周波数帯域の帯域制限画像信号を同じ変換方法で変換する従来の方法の問題点を示す図である。これは画像の濃度が急激に変化しているエッジ部の近傍における処理を段階的に示したものであるが、階段状の原画像信号とその原画像信号に基づいて作成されたボケ画像信号が(a)であり、これに関する帯域制限画像信号が(b)、変換画像信号が(c)およびこの変換画像信号を積算して得た信号



が(d)としてそれぞれ示されている。

【0068】この図に示されるように、通常変換画像信号を積算して得た信号は周波数帯域の境界部において不自然なつながり目が出てしまい、これがすじ状のアーチファクトの原因となる。これを防止するためには、この境界部ができるだけ自然につながるよう考慮して変換画像信号を作成しなければならない。しかしながら、関数が一意に定められている場合には各帯域制限画像信号に対して境界部の影響を考慮した任意の変換を行うことができず、結果としてすじ状のアーチファクトを防止することができなかった。これに対し、本実施の形態は、前記関数を周波数帯域ごとに異なるものとし、これらの関数を前記周波数帯域の境界部を考慮して設定することにより、このすじ状のアーチファクトを防止するものである。

【0069】次に、このような周波数ごとに異なる関数について例を示して説明する。図24は、上述のように変換画像信号の作成に使用される関数の一例であり、横軸に処理される帯域制限画像信号が、縦軸にその帯域制限画像信号が処理された値がそれぞれ対応している。これらの関数は、帯域制限画像信号を、その帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる、その絶対値以下の値となるように変換するもので、帯域制限画像信号の絶対値が所定の値より大きい帯域制限画像信号については、変換画像信号の値がほぼ一定の値となるように変換を行う関数であり、関数が高周波帯域を処理する関数であるほど、前記所定の値が小さい値であることを特徴とするものである。

【0070】言い換えれば、これらの関数はそれぞれ、原点を通り、関数の傾きがその関数により処理される帯域制限画像信号の値にかかわらず1以下であり、その関数により処理される帯域制限画像信号の値の絶対値の増加にともないその関数の傾きが0になるかまたは0に収束するような関数であって、その傾きが0または0に近い所定の値となるときの前記処理される値の絶対値が、高周波帯域を処理する関数であるほど小さい値であることを特徴とする。

【0071】この図24の関数は、振幅の大きな帯域制限画像信号を抑制するような変換を行うものであり、周波数帯域の高い帯域制限画像信号の抑制の度合いを、周波数帯域の低い帯域制限画像信号よりも強くするものであるが、これは実際の放射線画像のエッジに含まれている高周波成分が、低周波成分に比べてその振幅が小さいということを考慮したものである。すなわち図29に示されるように、実際の放射線画像においては、かなり急峻なエッジでさえも、図29(a)のように正確な階段状にはなっておらず、同図(b)のように高周波成分になるほどその振幅が小さくなっていることが多い。このため、各周波数成分の振幅に合わせて、周波数の高い帯域制限画像信号ほど小さい振幅から抑制を行うことが望ましく、本

関数によりそれを実現することができる。

【0072】次に図25の関数について説明する。図25の関数は、帯域制限画像信号を、帯域制限画像信号の絶対値に基づいて決まる、その絶対値以下の値となるように変換を行うもので、この関数が低周波帯域を処理する関数であるほど、帯域制限画像信号の絶対値が0近傍の所定の範囲内の値である帯域制限画像信号を変換した際に得られる変換画像信号の絶対値が小さい値であることを特徴とするものである。

10 【0073】言い換えれば、これらの関数はそれぞれ、原点を通り、関数の傾きがその関数により処理される値にかかわらず1以下であり、その関数の0近傍における傾きが、低周波帯域を処理する関数であるほど小さいことを特徴とするものである。

【0074】これらの関数は、図28に示される変換画像信号を積算して得られる信号(d)を、原画像信号Sorgに加えた場合、原画像信号Sorgと加算された信号とのつながり目、すなわち信号の立ち上がりをより自然なものとするという効果がある。

20 【0075】図26に示される関数は、周波数強調処理装置において使用される関数で、図24および図25の関数の両方の特徴を兼ね備えたものであり、両方の関数の効果を得ることができるものである。

【0076】以上のように本発明の画像処理方法および装置により、各周波数帯域において使用される関数を目的に応じて異ならしめて全体の周波数特性を任意のものとすることが可能となる。図27はその効果の一例を示すものであるが、この図には本発明の画像処理装置により作成された各周波数帯域ごとの信号の周波数特性(a-1)、(b-1)、(c-1)と、それに対応する全体の周波数特性(a-2)、(b-2)、(c-2)が示されている。(a-1)、(a-2)は全ての周波数帯域で傾き1の関数を設定した場合、(b-1)、(b-2)は低周波帯域ほど傾きを小さく設定した場合、(c-1)、(c-2)は特定の周波数帯域のみ関数の傾きを1とし、それ以外を1より小さくすることにより全体としてバンドパスの周波数特性を得た場合であり(c)の例は、ある特定の周波数帯域の情報のみを得たい場合などに有用である。

【0077】なお、上記閾値より大きい値を抑制する実施の形態および閾値によらず全体を抑制する実施の形態の2つの実施の形態では、変換手段3により行う変換処理を強調係数 $\beta$ に応じて異なる処理としてもよい。以下、その効果を閾値によらない関数を用いる場合を例に説明する。

【0078】この関数 $f_1 \sim f_n$ として、上記強調係数 $\beta$ が比較的小さい場合には図30に示されるような関数を、また強調係数 $\beta$ が大きい場合には図31に示すような関数を用いている。ここで、図中の「高」「低」はそれぞれ、高周波帯域の帯域制限画像信号の変換に使用される関数、低周波帯域の帯域制限画像信号の変換に使用される

## 31

関数を示している。

【0079】これらの関数はいずれも帯域制限画像信号をその帯域制限画像信号の絶対値よりも小さくなるように抑制するものであるが、本実施の形態では、図30および図31とを比較することによりわかるように、強調係数 $\beta$ が大きいときほど、高周波帯域を処理する関数による抑制の度合いと、低周波帯域を処理する関数による抑制の度合いとの差が大きくなるように関数の組み合わせを定義している。具体的には、高周波帯域を処理する関数は強調係数に拘わらず一定とし、低周波帯域を処理する関数の抑制の度合いを強調係数が大きくなるほど強くすることにより差を広げている。但し、これは低周波帯域を処理する関数を一定として高周波帯域を処理する関数の抑制の度合いを緩めてもよく、また全ての関数を抑制の度合いの差が広がるように変化させてもよい。

【0080】以上説明したような関数により高周波成分を強調された画像信号を、レスポンスとして示したものが図32および図33である。図32は、上記図30に示される関数の組み合わせを使用した場合であり、図33は図31に示される関数の組み合わせを使用した場合である。これらの図によれば、強調係数を大きくした際に高周波成分のみ強調の度合いが強くなり、低周波成分の強調の度合いは強調係数が小さい場合とそれほど変わらないようになっていることがわかる。

【0081】強調係数 $\beta$ によらずに関数の組み合わせを決定する場合には、強調係数を大きくすると全ての周波数帯域において強調の度合いが強くなる。一般に強調係数を大きくするのは、情報量が少ない高周波成分を強調するためであるが、これでは、低周波成分までもが強調されてしまうことになり、その結果コントラストがすぎ、アーチファクトとなることがある。したがって、図31に示されるように、強調係数 $\beta$ を大きくしても低周波成分の強調の度合いはあまり変化させないようにすることにより、このアーチファクトの発生を防止することができる。

【0082】なお、上記説明においては、強調係数 $\beta$ が小さい場合と大きい場合用に1組ずつ関数の組み合わせを示したが、これは関数の組み合わせが2組であることを意味するものではなく、強調係数 $\beta$ の変化に応じて関数の特徴をどのように変えればよいかを示すための例にすぎない。したがって、強調係数 $\beta$ の変化の度合いを何段階かのレベルに分類し、各レベルに応じて関数の組み合わせを決定するといったことも可能であり、そのような段階をより細かく設定することにより、より高画質な画像が得られることはいうまでもない。

【0083】また、上記実施の形態では、強調係数を大きくするのは高周波成分のみを強調したいためであるとの解釈に基づいて非線形関数を決定しているが、強調係数を変化させる目的はこれに限られるのではなく、したがって非線形関数としては目的に応じて様々なものが

## 32

適用可能である。この際、上記例では非線形関数は各周波数帯域ごとに異なる複数の非線形関数の組としているが、達成したい目的によっては、全ての周波数帯域に同一の非線形関数を用いても本発明の効果をを得ることができる。

【0084】次に、本発明の画像処理方法および装置の他の実施の形態について説明する。但し、本実施の形態におけるボケ画像信号作成手段1、帯域制限画像信号作成手段2、積算手段4、周波数強調処理手段5の処理は上記実施の形態と同じであるため、ここでは説明を省略し、変換手段3の処理についてのみ、以下説明する。

【0085】図34はこの実施の形態における本発明の画像処理装置の全体の構成を示す図である。上記実施の形態と同様、原画像信号Sorgおよびボケ画像信号作成手段1において作成された複数のボケ画像信号Suskに基づいて帯域制限画像信号が作成される。この帯域制限画像信号は減算器21により、互いに隣接する周波数帯域の2つのボケ画像信号Susk（但し原画像信号SorgについてはSorgとSus1）の減算を行うことにより得られる。すなわち、 $Sorg - Sus_1$ 、 $Sus_1 - Sus_2$ 、 $\dots$ 、 $Sus_{N-1} - Sus_N$ を順次計算することにより、複数の帯域制限画像信号が求められる。本実施の形態では、例えば帯域制限画像信号Sus1 - Sus2に対し、これに対応する補助画像信号をSus2 - Sus3としている。したがって、帯域制限画像信号作成手段と補助画像信号作成手段は実質的に同一の手段を兼用するものとする。つまり、帯域制限画像信号作成手段により作成された信号は、帯域制限画像信号として処理されると同時に、隣接する帯域制限画像信号に対応する補助画像信号としても処理されるものとする。

【0086】上記のようにして求められた帯域制限画像信号は、変換手段3において変換される。この変換は各帯域制限画像信号に対して、図34に示される変換器22および変換器24により、周波数帯域ごとにそれぞれ、変換器22においては関数 $f_1 \sim f_n$ により変換処理を施して抑制画像信号を得、変換器24においては関数 $g$ により変換処理を施して倍率信号を得て、その抑制画像信号と倍率信号とを乗ずることにより行われる。この際、乗算は、図34に示されるように、例えば帯域制限画像信号Sus1 - Sus2を変換して得た抑制画像信号と、補助画像信号Sus2 - Sus3を変換して得た倍率信号というように、隣接した周波数帯域の信号どうして行われる。ここで、関数 $f_k$ により変換を行う変換器22が、前記抑制画像信号作成手段に相当し、関数 $g$ により変換を行う変換器24が、前記倍率信号作成手段に相当し、それらの変換器の出力信号を乗ずる乗算器25が、前記乗算手段に相当する。

【0087】関数 $f_1 \sim f_n$ は、全て同じ関数であってもよいし、異なる関数であってもよく、画像処理の目的に応じて任意に設定可能なものとする。本実施の形態では、

33

この関数 $f_1 \sim f_N$ として、帯域制限画像信号をその帯域制限画像信号の絶対値よりも小さくなるように抑制する関数で、周波数帯域ごとに異なる関数を用いており、例えば図24に示されるような関数を使用される。

【0088】関数 $g$ としては、例えば図35に示されるようなものが用いられる。この図は、この関数 $g$ によって補助画像信号を変換する場合、補助画像信号の絶対値が小さいときには、変換後の値として1に近い値が得られ、絶対値が大きいほど0に近い値が得られることを示している。なお、 $K$ は変換後の値が0となる値のうち最小の値を示している。

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) &= \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) \cdot g (S_{us1} - S_{us2}) \\ &\quad + f_2 (S_{us1} - S_{us2}) \cdot g (S_{us2} - S_{us3}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{usk-1} - S_{usk}) \cdot g (S_{usk} - S_{usk+1}) + \dots \\ &\quad + f_N (S_{usN-1} - S_{usN}) \cdot g (S_{usN} - S_{usN+1}) \} \quad \dots (9) \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号  
 $S_{org}$ ：原画像信号  
 $S_{usk} (k=1 \sim N+1)$ ：非鮮鋭マスク画像信号  
 $f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換して前記抑制信号を作成するための関数  
 $g$ ：前記各補助画像信号を変換して前記倍率信号を作成するための関数  
 $\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係数) 10

【0090】図36は、上記実施の形態においてエッジ付近の画像信号を処理した際の効果を示す図である。(1)はエッジ付近における階段状の原画像信号と、その原画像信号に基づいて作成されたボケ画像信号を示し、(2)は、(1)の信号の帯域制限画像信号を示し、(3)は(2)の帯域制限画像信号より1つ低い周波数帯域の信号を含む補助画像信号を示し、(4)は(3)の補助画像信号を関数 $g$ ※

$$\begin{aligned} S_{proc} &= S_{org} + \beta (S_{org}) \cdot F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) \\ F_{sum} (S_{org}, S_{us1}, S_{us2}, \dots, S_{usN}) &= \{ f_1 (S_{org} - S_{us1}) \cdot g (S_{org} - S_{us2}) \\ &\quad + f_2 (S_{us1} - S_{us2}) \cdot g (S_{org} - S_{us3}) + \dots \\ &\quad + f_k (S_{usk-1} - S_{usk}) \cdot g (S_{org} - S_{usk+1}) + \dots \\ &\quad + f_N (S_{usN-1} - S_{usN}) \cdot g (S_{org} - S_{usN+1}) \} \quad \dots (10) \end{aligned}$$

(但し、 $S_{proc}$ ：高周波成分が強調された画像信号  
 $S_{org}$ ：原画像信号  
 $S_{usk} (k=1 \sim N+1)$ ：非鮮鋭マスク画像信号  
 $f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各帯域制限画像信号を変換して前記抑制信号を作成するための関数  
 $g$ ：前記各補助画像信号を変換して前記倍率信号を作成するための関数  
 $\beta (S_{org})$ ：原画像信号に基づいて定められる強調係 ★50

34

\*【0089】上記変換手段3により得られた変換画像信号は、演算器23に入力される。演算器23は、積算手段4および周波数強調処理手段5を内包するものである。演算器23においては、複数の変換画像信号が積算され、この積算により得られた積算値に原画像信号 $S_{org}$ に応じて決定される強調係数 $\beta$ が乗じられ、さらにこの強調係数 $\beta$ が乗じられた積算値が原画像信号 $S_{org}$ と加算されて処理済画像信号 $S_{proc}$ が得られる。この処理を、上述した他の処理とともに数式として表すと、下記の式 (9)

※により処理した際に得られる倍率信号を示し、(5)は(2)の信号を関数 $f$ で処理した抑制画像信号に(4)の倍率信号を乗じたものを示している。なお(3)に示されている値 $K$ は、図35に示した値 $K$ であり、(3)の補助画像信号が $K$ となる時に(4)の倍率信号が0となることが図示されている。(2)の信号を単に絶対値が小さくなるように変換した場合には、信号のピークの形状は滑らかになるものの、立ち上がり部分は急峻なままとなる。これに対し、(5)に示される処理済信号は立ち上がり部分が滑らかになっている。このように各帯域制限画像信号の立ち上がり部分を滑らかにすることにより、これらの信号を積算して得られる信号の周波数帯域の境界に階段状に生じるアーチファクトを防止することができる。

【0091】なお、関数 $g$ により処理される補助画像信号は、必ずしも上記のようなものでなくてもよく、本発明の他の実施の形態では、周波数強調処理装置では、下記の式(10)

★数)

のような式にしたがって画像処理を行っている。

【0092】図37は、この式(10)を適用した実施の形態においてエッジ付近の画像信号を処理した際の効果を示す図であり、図36と同様に、(1)はエッジ付近における階段状の原画像信号と、その原画像信号に基づいて作成されたボケ画像信号を示し、(2)は、(1)の信号の帯域制限画像信号を示し、(3)は(2)の帯域制限画像信号より

1つ低い周波数帯域の信号を含む補助画像信号を示し、(4)は(3)の信号を関数 $g$ により処理した際に得られる倍率信号を示し、(5)は(2)の帯域制限画像信号を関数 $f$ で処理した抑制画像信号に(4)の倍率信号を乗じたものを示している。この図に示されるように、関数 $g$ により処理する値として $Sorg - Susk$ を用いる場合、コントラストの大きなエッジについては、変換により得られる信号は小さくなり、コントラストの小さなエッジについては変換により得られる信号はもとの帯域制限画像信号に近い大きさとなる。

【0093】この信号は積算された後に、強調のために原画像信号に加算される。この場合、コントラストの大きなエッジはほとんど強調されないのに対し、コントラストの小さなエッジはコントラストの大きなエッジに比べると相対的に強く強調されるという効果が得られる。

【0094】以上、2種類の式について説明したが、関数 $f$ および $g$ について、あるいは関数 $g$ により処理する帯域制限画像信号の作成方法については、様々な変更が可能である。

【0095】次に、本発明の画像処理方法および装置のさらに他の実施の形態について説明する。但し、この実施の形態についても、ボケ画像信号作成手段1、帯域制限画像信号作成手段2、積算手段4、周波数強調処理手段5の処理は上記実施の形態と同じであるため説明を省略し、変換手段3の処理についてのみ、以下説明する。

【0096】図38は本実施の形態における画像処理装置の全体の構成を示す図である。上記実施の形態と同様、原画像信号 $Sorg$ およびボケ画像信号作成手段1において作成された複数のボケ画像信号 $Susk$ に基づいて帯域制限画像信号が作成される。この帯域制限画像信号は減算器21により、互いに隣接する周波数帯域の2つのボケ画像信号 $Susk$ （但し原画像信号 $Sorg$ については $Sorg$ と $Sus1$ ）の減算を行うことにより得られる。すなわち、 $Sorg - Sus1$ 、 $Sus1 - Sus2$ 、 $\dots$ 、 $SusN-1 - SusN$ を順次計算することにより、複数の帯域制限画像信号が求められる。

【0097】上記のようにして求められた帯域制限画像信号は、変換手段3において変換される。この変換では、図38に示されるように、ある周波数帯域の帯域制限画像信号に、その周波数帯域よりも1つ低い周波数帯域の帯域制限画像信号を変換器24により関数 $g$ を用いて変

\*換したものを加えて、さらにそれを変換器22により関数 $f_k$ を用いて変換する。ここで、関数 $g$ により変換を行う変換器24が、前記補助画像信号作成手段に相当し、加算器26が前記複合帯域制限画像信号作成手段に相当する。

【0098】関数 $g$ としては、例えば図39に示されるようなものが用いられる。図39に示される関数は原点をとり原点における傾きはほぼ0であり、処理される値が大きくなるにつれて傾きが漸増し、最終的に傾きがほぼ1となるような関数である。すなわち、信号の大きさが小さいときには強く抑制し、大きくなるにつれて抑制の度合いを緩めるというものである。上述の処理において、この関数の、原点から徐々に傾きが増加する部分は、補助画像信号の立ち上がりの部分の波形に影響を与える。すなわち、この関数により変換を行うことで、急峻な立ち上がり部分を滑らかにすることができる。ここで、実際の帯域制限画像信号の大きさには限度があるため、関数 $g$ は原点付近で傾きが0から徐々に増加するような関数であれば、どのようなものでもよく例えば、図40に示されるようなものであってもよい。また、本実施の形態では、信号の増幅は行わないため、傾きは最大1としているが、本発明の効果は関数の傾きが原点付近で漸増することにより得られるものであるため、この条件が満たされていれば、必ずしも傾きを最大1に限定する必要はない。

【0099】関数 $f_1 \sim f_N$ は、全て同じ関数であってもよいし、異なる関数であってもよく、画像処理の目的に応じて任意に設定可能なものとする。本実施の形態では、この関数 $f_1 \sim f_N$ として、例えば図24のような関数を使用する。

【0100】上記変換手段3により得られた変換画像信号は、演算器23に入力される。演算器23は、積算手段4および周波数強調処理手段5を内包するものである。演算器23においては、複数の変換画像信号が積算され、この積算により得られた積算値に原画像信号 $Sorg$ に応じて決定される強調係数 $\beta$ が乗じられ、さらにこの強調係数 $\beta$ が乗じられた積算値が原画像信号 $Sorg$ と加算されて処理済画像信号 $Sproc$ が得られる。この処理を、上述した他の処理とともに数式として表すと、下記の式

(11)

$$\begin{aligned} Sproc &= Sorg + \beta (Sorg) \cdot F_{sum} (Sorg, Sus1, Sus2, \dots, SusN) \\ F_{sum} (Sorg, Sus1, Sus2, \dots, SusN) &= [ f_1 \{ (Sorg - Sus1) + g (Sus1 - Sus2) \} \\ &\quad + f_2 \{ (Sus1 - Sus2) + g (Sus2 - Sus3) \} + \dots \\ &\quad + f_k \{ (Sus_{k-1} - Sus_k) + g (Sus_k - Sus_{k+1}) \} + \dots \\ &\quad + f_N \{ (Sus_{N-1} - Sus_N) + g (Sus_N - Sus_{N+1}) \} ] \\ &\quad \dots (11) \end{aligned}$$

（但し、 $Sproc$ ：高周波成分が強調された画像信号  
 $Sorg$ ：原画像信号

\*  $Susk (k=1 \sim N+1)$ ：非鮮鋭マスク画像信号

※50  $f_k (k=1 \sim N)$ ：前記各複合帯域制限画像信号を変換する

ための関数

g: 前記各帯域制限画像信号を変換して前記補助画像信号を作成するための関数

β (Sorg): 原画像信号に基づいて定められる強調係数

のようになる。

【0101】図41は、この実施の形態においてエッジ付近の画像信号を処理した際の効果を示す図である。(1)はエッジ付近における階段状の原画像信号と、その原画像信号に基づいて作成されたボケ画像信号を示し、(2)および(3)は、(1)の信号にかかる帯域制限画像信号であって、(2)を被変換帯域制限画像信号とした場合の低周波側帯域制限画像信号が(3)である。(4)は(3)の低周波側帯域制限画像信号を関数gにより処理した際に得られる補助画像信号を示し、(5)は(2)の被変換帯域制限画像信号と(4)の補助画像信号を加算した複合帯域制限画像信号を示し、(6)は(5)の複合帯域制限画像信号を関数fにより処理して得られる変換画像信号を示している。この図において、(2)の信号を単に絶対値が小さくなるように変換した場合には、信号のピークの形状は滑らかなもの、立ち上がり部分は急峻なままとなる。これに対し、(5)に示される処理済信号は立ち上がり部分が\*

$$f_k(x) = A_k x^3 + B_k x^2 + C_k x + D_k \quad \dots (12)$$

において(式(12)においてB<sub>k</sub>は便宜上利用される係数であり、フィルタリング処理画像とは異なる。)、

$$f_k'(X_k) = f_{k-1}'(X_k) \quad \dots (13)$$

$$f_k'(X_{k+1}) = f_{k+1}'(X_{k+1}) \quad \dots (14)$$

$$f_k''(X_k) = f_{k-1}''(X_k) \quad \dots (15)$$

$$f_k''(X_{k+1}) = f_{k+1}''(X_{k+1}) \quad \dots (16)$$

が条件となる。ただし、画素X<sub>k</sub>における第1階微分係数

$$f_k'(X_k) = (Y_{k+1} - Y_{k-1}) / (X_{k+1} - X_{k-1}) \quad \dots (17)$$

同様に、画素X<sub>k+1</sub>における第1階微分係数が、その画素X<sub>k+1</sub>の前後の画素であるX<sub>k</sub>とX<sub>k+2</sub>とについて、これらの画像信号Y<sub>k</sub>、Y<sub>k+2</sub>の勾配(Y<sub>k+2</sub>-Y<sub>k</sub>)★

$$f_k'(X_{k+1}) = (Y_{k+2} - Y_k) / (X_{k+2} - X_k) \quad \dots (18)$$

また関数f(X)は一般に下記式(19)に示すもので近似される。

$$f(X) = f(0) + f'(0)X + \{f''(0)/2\}X^2 \quad \dots (19)$$

ここで、各区分X<sub>k-2</sub> ~ X<sub>k-1</sub>, X<sub>k-1</sub> ~ X<sub>k</sub>, X<sub>k</sub> ~ X<sub>k+1</sub>, X<sub>k+1</sub> ~ X<sub>k+2</sub>の間隔(格子間隔という)を1とし、画素X<sub>k</sub>からの画素X<sub>k+1</sub>方向への補間点X<sub>p</sub>の位置をt(0 ≤ t ≤ 1)とすれば、式(13) ~ (16)および(19)より、

$$f_k'(0) = C_k = (Y_{k+1} - Y_{k-1}) / 2$$

$$f_k'(1) = 3A_k + 2B_k + C_k = (Y_{k+2} - Y_k) / 2$$

$$f_k''(0) = Y_{k+1} - 2Y_k + Y_{k-1} = 2B$$

したがって、

$$A_k = (Y_{k+2} - 3Y_{k+1} + 3Y_k - Y_{k-1}) / 6$$

$$B_k = (Y_{k+1} - 2Y_k + Y_{k-1}) / 2$$

\*滑らかになっている。このように各帯域制限画像信号の立ち上がり部分を滑らかにすることにより、これらの信号を積算して得られる信号の周波数帯域の境界に階段状に生じるアーチファクトを防止することができる。

【0102】以上、2つの式について説明したが、この実施の形態においても、例えば、関数fおよびgについて、様々な変更が可能である。

【0103】なお、本明細書において説明したいいくつかの実施の形態は全て、ガウス信号のフィルタを用いて、補間演算処理を行うようにしているが、Bスプライン補間演算によりフィルタリング処理画像に対して補間演算処理を施すようにしてもよい。以下このBスプライン補間演算処理について説明する。

【0104】Bスプライン補間演算は、比較的鮮鋭度の低い滑らかな2次画像を再生するための補間画像データを得るための補間演算方法である。このBスプライン補間演算は、元のサンプル点(画素)を通ることは必要とされない代わりに、第1階微分係数および第2階微分係数(f'(X))で表す)が各区分間で連続することが必要とされる。

【0105】すなわち、

★数が、その画素X<sub>k</sub>の前後の画素であるX<sub>k-1</sub>とX<sub>k+1</sub>とについて、これらの画像信号Y<sub>k-1</sub>、Y<sub>k+1</sub>の勾配(Y<sub>k+1</sub>-Y<sub>k-1</sub>)/(X<sub>k+1</sub>-X<sub>k-1</sub>)に一致することが条件であるから、下記式(17)を満たす必要がある。

【0106】

★/(X<sub>k+2</sub>-X<sub>k</sub>)に一致することが条件であるから、下記式(18)を満たす必要がある。

【0107】

☆【0108】

$$◆C_k = (Y_{k+1} - Y_{k-1}) / 2$$

ここで、D<sub>k</sub>は未知のため、

$$D_k = (D_1 Y_{k+2} + D_2 Y_{k+1} + D_3 Y_k + D_4 Y_{k-1}) / 6$$

とおく。また、スプライン補間関数f<sub>k</sub>(x)は上述の通り、X=tなる変数変換をしているため、

$$f_k(x) = f_k(t)$$

となる。よって、

$$f_k(t) = \{ (Y_{k+2} - 3Y_{k+1} + 3Y_k - Y_{k-1}) / 6 \} t^3 + \{ (Y_{k+1} - 2Y_k + Y_{k-1}) / 2 \} t^2 + \{ (Y_{k+1} - Y_{k-1}) / 2 \} t + (D_1 Y_{k+2} + D_2 Y_{k+1} + D_3 Y_k + D_4 Y_{k-1}) / 6$$

となり、これを画像信号 $Y_{k-1}$ 、 $Y_k$ 、 $Y_{k+1}$ 、 $Y_{k+2}$  \* する。

について整理すると、下記式(20)で表すことができ \* 【0109】

$$\begin{aligned} f_k(t) = & \{ (-t^3 + 3t^2 - 3t + D_4) / 6 \} Y_{k-1} \\ & + \{ (3t^3 - 6t^2 + D_3) / 6 \} Y_k \\ & + \{ (-3t^3 + 3t^2 + 3t + D_2) / 6 \} Y_{k+1} \\ & + \{ (t^3 + D_1) / 6 \} Y_{k+2} \quad \dots (20) \end{aligned}$$

ここで、 $t=1$ とおけば、

$f_k(1) = \{ (D_4 - 1) / 6 \} Y_{k-1} + \{ (D_3 - 3) / 6 \} Y_k + \{ (D_2 + 3) / 6 \} Y_{k+1} + \{ (D_1 + 1) / 6 \} Y_{k+2}$  次に区間 $X_{k+1} \sim X_{k+2}$ についての式(17)は、

$$\begin{aligned} f_{k+1}(t) = & \{ (-t^3 + 3t^2 - 3t + D_4) / 6 \} Y_k \\ & + \{ (3t^3 - 6t^2 + D_3) / 6 \} Y_{k+1} \\ & + \{ (-3t^3 + 3t^2 + 3t + D_2) / 6 \} Y_{k+2} \\ & + \{ (t^3 + D_1) / 6 \} Y_{k+3} \quad \dots (21) \end{aligned}$$

ここで、 $t=0$ とおけば、

$f_{k+1}(0) = (D_4 / 6) Y_k + (D_3 / 6) Y_{k+1} + (D_2 / 6) Y_{k+2} + (D_1 / 6) Y_{k+3}$

連続性の条件( $f_k(1) = f_{k+1}(0)$ )、および各フィルタリング処理画像信号に対応する係数同士が等し★

★という条件により、 $D_4 - 1 = 0$ 、 $D_3 - 3 = D_4$ 、 $D_2 + 3 = D_3$ 、 $D_1 + 1 = D_2$ 、 $D_1 = 0$ 、となり、したがって、 $D_k = (Y_{k+1} + 4Y_k + Y_{k-1}) / 6$  となる。よって、

$$\begin{aligned} Y_p = f_k(t) = & \{ (-t^3 + 3t^2 - 3t + 1) / 6 \} Y_{k-1} \\ & + \{ (3t^3 - 6t^2 + 4) / 6 \} Y_k \\ & + \{ (-3t^3 + 3t^2 + 3t + 1) / 6 \} Y_{k+1} \\ & + \{ t^3 / 6 \} Y_{k+2} \quad \dots (22) \end{aligned}$$

したがって、フィルタリング処理画像信号 $Y_{k-1}$ 、 $Y_k$ 、 $Y_{k+1}$ 、 $Y_{k+2}$ にそれぞれ対応する補間係数 $b_{k-1}$ 、 $b_k$ 、 $b_{k+1}$ 、 $b_{k+2}$ は、

$$\begin{aligned} b_{k-1} &= (-t^3 + 3t^2 - 3t + 1) / 6 \\ b_k &= (3t^3 - 6t^2 + 4) / 6 \\ b_{k+1} &= (-3t^3 + 3t^2 + 3t + 1) / 6 \\ b_{k+2} &= t^3 / 6 \end{aligned}$$

となる。

【0110】以上の演算を各区間 $X_{k-2} \sim X_{k-1}$ 、 $X_{k-1} \sim X_k$ 、 $X_k \sim X_{k+1}$ 、 $X_{k+1} \sim X_{k+2}$ について繰り返すことにより、フィルタリング処理画像信号の全体についてフィルタリング処理画像信号とは間隔の異なる補間画像信号を求めることができる。

【0111】したがって、このBスプライン補間演算処理を各フィルタリング処理画像信号 $B_k$ に対して施すことにより、各フィルタリング処理画像信号 $B_k$ に対応したボケ画像信号 $S_{usk}$ を得ることができる。

【0112】また、上記全ての実施の形態では、原画像信号 $S_{org}$ に対して1画素おきにフィルタリング処理を施し、さらに補間演算を施すことによりボケ画像信号 $S_{usk}$ を得るようにしているが、フィルタリング処理についてもこれに限定されるものではなく、複数のサイズのボケマスクを用いて、原画像信号 $S_{org}$ にフィルタリング処理を施すことにより、複数の周波数応答特性が異なるボケ画像信号 $S_{usk}$ を得るようにしてもよい。

【0113】さらに、上述した全ての実施の形態における画像処理方法および装置は、断層撮影により画像に現れる流れ像を除去する場合にも適用できる。

☆【0114】すなわち、断層撮影を行うことにより得られる流れ像を除去するために、ボケマスク処理を行う方法が提案されているが(特開平3-276265号)、この場合においても、急激に濃度が変化するエッジ部の近傍において、アーチファクトが発生するという問題がある。この場合、流れ像を除去するためにはボケマスクを1次元としてボケ画像信号 $S_{usk}$ を得てボケマスク処理を行うものであるが、上述した実施の形態における画像処理における互いに周波数応答特性が異なるボケ画像信号 $S_{usk}$ を得る際に、流れ像を除去するための1次元ボケマスクによるフィルタリング処理を行い、これに基づいて上述したような帯域制限画像信号を得、この帯域制限画像信号の絶対値が比較的大きい場合は、その絶対値が小さくなるように変換して、その後の処理を行うことにより、流れ像を除去するとともに、アーチファクトのない良好な画像を得ることができる。

【0115】また、流れ像を除去するための1次元ボケマスクによる処理とともに、上述した2次元のボケマスク、あるいは1次元ボケマスクを2次元的に施す処理を同時に行うようにしてもよい。これにより、原画像から流れ像が除去されるとともに、エッジ部近傍のアーチファクトをより一層低減することができるため、より画質のよい処理済画像を得ることができる。

【0116】また、上記一実施の形態において、帯域制限画像信号に対して撮影部位ごとに異なる変換処理を施すことにより得られる効果について説明したが、この撮影部位ごとに処理を変えるという思想は上記全ての実施の形態に適用できるものである。

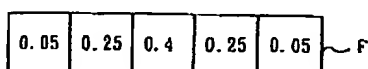
## 【図面の簡単な説明】

- 【図1】本発明による画像処理装置の概念を表す図  
 【図2】ボケ画像信号作成手段の詳細を表す図  
 【図3】ボケ画像信号作成手段において用いられるフィルタ（1次元）を表す図  
 【図4】フィルタリング処理の詳細を表す図  
 【図5】フィルタリング処理画像信号の周波数特性を表す図  
 【図6】フィルタリング処理手段において用いられるフィルタ（2次元）を表す図  
 【図7】フィルタリング処理画像信号B<sub>1</sub>の補間演算に用いられるフィルタを表す図  
 【図8】補間演算の詳細を表す図  
 【図9】フィルタリング処理画像信号B<sub>2</sub>の補間演算に用いられるフィルタを表す図  
 【図10】補間演算の詳細を表す図  
 【図11】ボケ画像信号の周波数特性を表す図  
 【図12】本発明の画像処理装置の一実施の形態における全体構成を示す図  
 【図13】帯域制限画像信号の周波数特性を表す図  
 【図14】変換手段における帯域制限画像信号の変換処理の一例を表す図  
 【図15】処理済画像信号の周波数特性を表す図  
 【図16】処理済画像信号の他の周波数特性を表す図  
 【図17】変換手段における帯域制限画像信号の変換処理の他の例を表す図  
 【図18】帯域制限画像信号の他の周波数特性を表す図  
 【図19】撮影部位に応じた帯域制限画像信号の変換処理を表す図  
 【図20】周波数帯域に応じた帯域制限画像信号の変換処理を表す図  
 【図21】周波数帯域に応じた帯域制限画像信号の他の変換処理を表す図  
 【図22】図20に示す関数により得られる処理済画像信号の周波数特性を表す図  
 【図23】図21に示す関数により得られる処理済画像信号の周波数特性を表す図  
 【図24】変換手段において変換処理に使用される関数の一例を示す図  
 【図25】変換手段において変換処理に使用される関数の他の一例を示す図  
 【図26】図24の関数と図25の関数の特徴を兼ね備えた関数の一例を示す図  
 【図27】周波数帯域ごとの周波数特性と全体の周波数

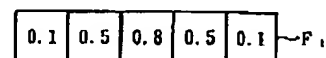
## 特性とを示す図

- 【図28】全ての帯域制限画像信号を1種類の関数で変換した際の問題点を示す図  
 【図29】理想のエッジと実際のエッジを示す図  
 【図30】強調係数が小さい場合に各帯域制限画像信号を変換する関数の一例を示す図  
 【図31】強調係数が大きい場合に各帯域制限画像信号を変換する関数の一例を示す図  
 【図32】図30の関数を変換に用いることにより得られる画像信号のレスポンスを示す図  
 【図33】図31の関数を変換に用いることにより得られる画像信号のレスポンスを示す図  
 【図34】本発明の画像処理装置の他の実施の形態における全体構成を示す図  
 【図35】倍率信号作成手段において使用される関数の一例を示す図  
 【図36】図34に示す実施の形態における効果を示す図  
 【図37】図34に示す実施の形態における効果を示す図  
 【図38】本発明の画像処理装置のさらに他の実施の形態における全体構成を示す図  
 【図39】各帯域制限画像信号を変換して補助画像信号を作成するための関数の一例を示す図  
 【図40】各帯域制限画像信号を変換して補助画像信号を作成するための関数の他の例を示す図  
 【図41】図38に示す実施の形態における効果を示す図  
 【図42】エッジ部近傍のボケ画像信号の作成処理を示す図
- 【符号の説明】
- |    |              |
|----|--------------|
| 1  | ボケ画像信号作成手段   |
| 2  | 帯域制限画像信号作成手段 |
| 3  | 変換手段         |
| 4  | 積算手段         |
| 5  | 周波数強調処理手段    |
| 10 | フィルタリング処理手段  |
| 11 | 補間演算処理手段     |
| 21 | 減算器          |
| 22 | 変換器          |
| 23 | 演算器          |
| 24 | 変換器          |
| 25 | 乗算手段         |
| 26 | 加算器          |

【図3】

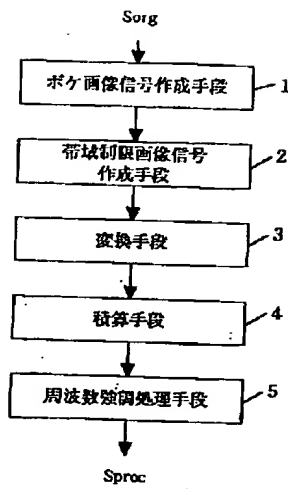


【図7】

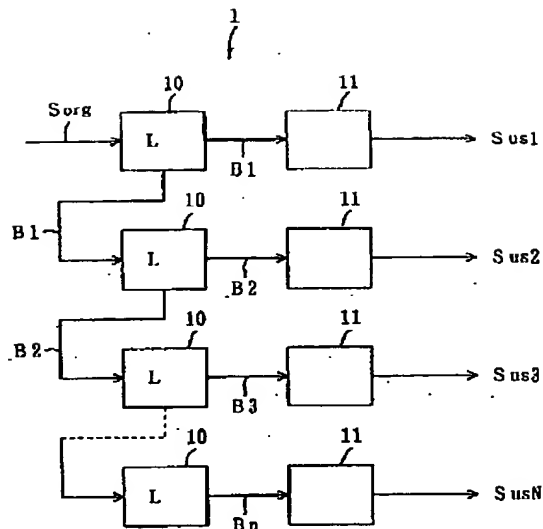




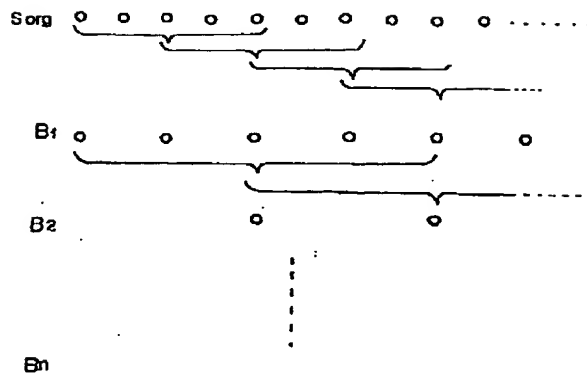
【図1】



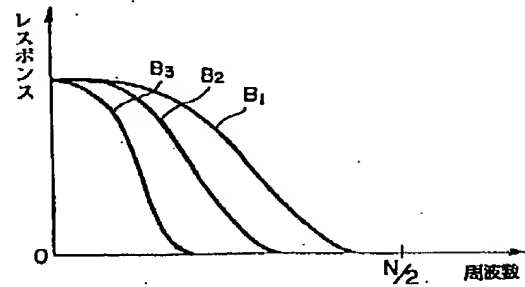
【図2】



【図4】



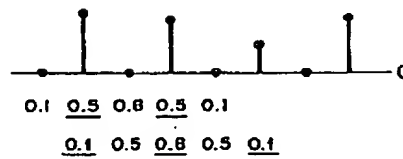
【図5】



【図6】

0.0025	0.0125	0.02	0.0125	0.0025
0.0125	0.0625	0.1	0.0625	0.0125
0.02	0.1	0.18	0.1	0.02
0.0125	0.0625	0.1	0.0625	0.0125
0.0025	0.0125	0.02	0.0125	0.0025

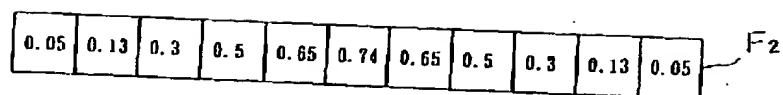
【図8】



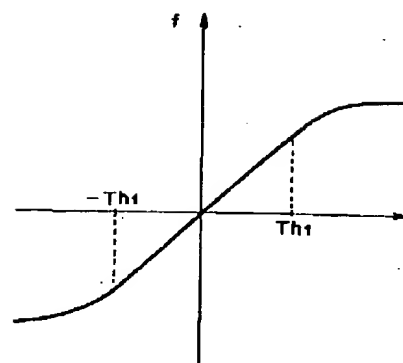
【図10】



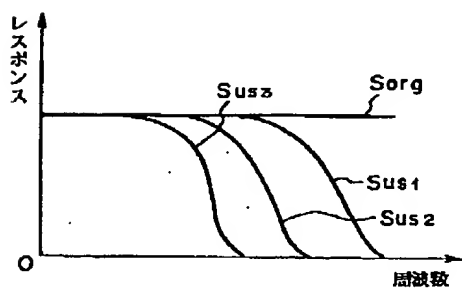
【図9】



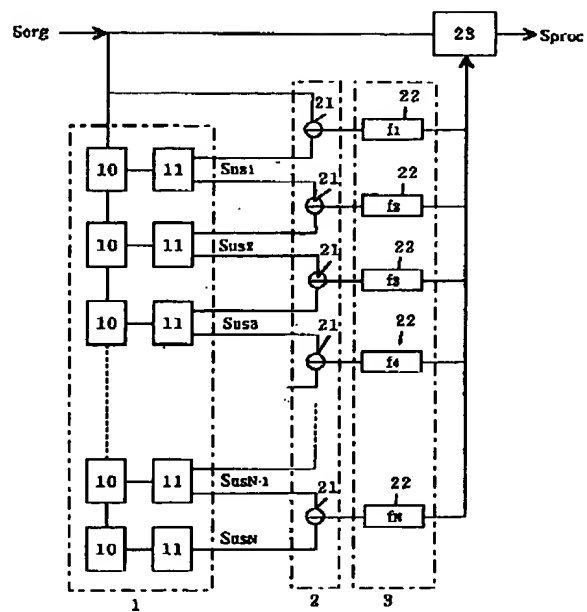
【図14】



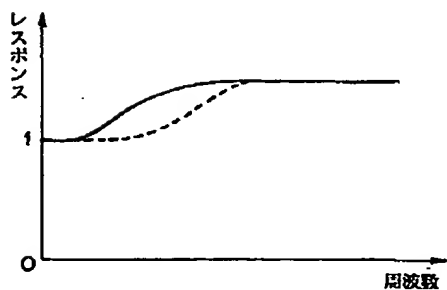
【図11】



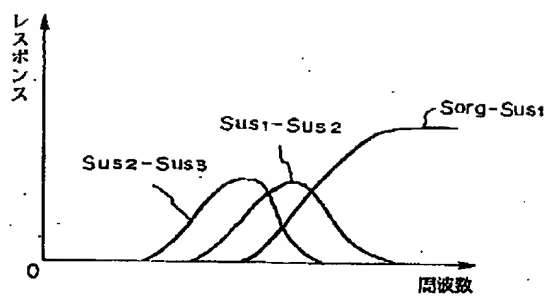
【図12】



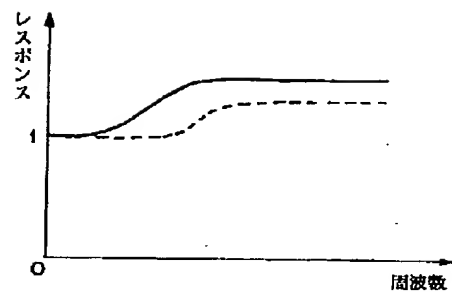
【図15】



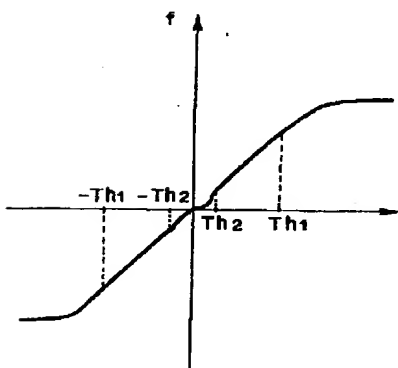
【図13】



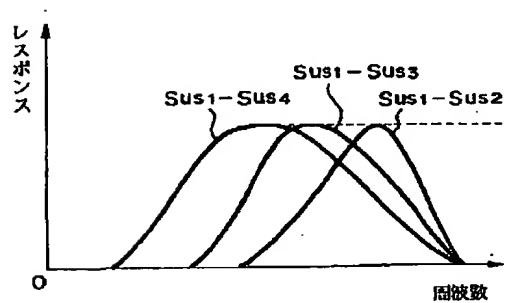
【図16】



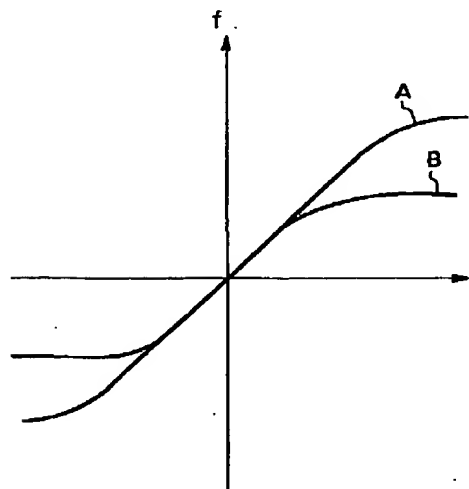
【図17】



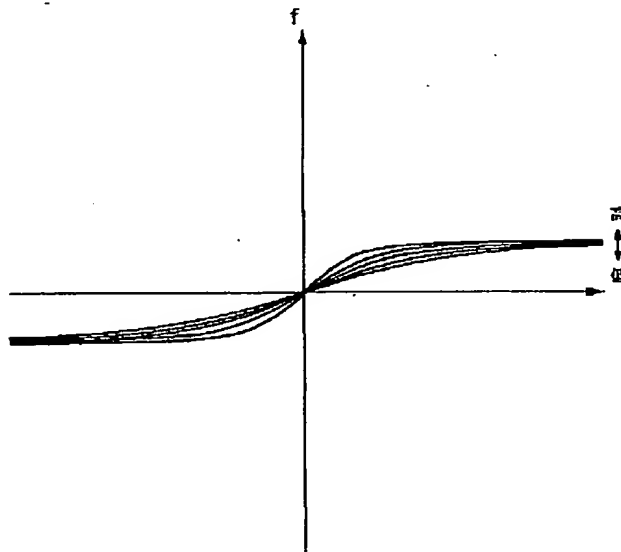
【図18】



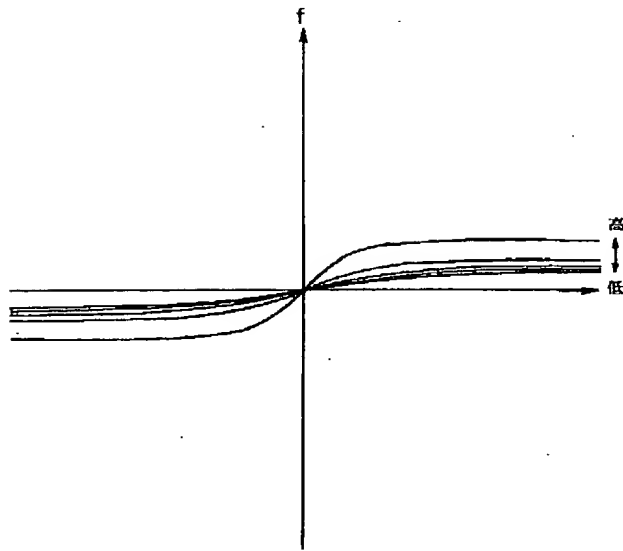
【図19】



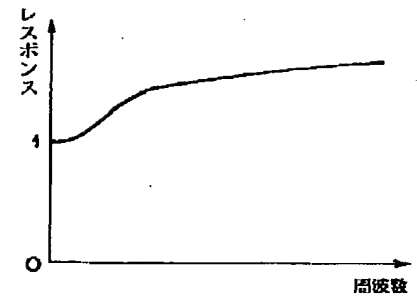
【図20】



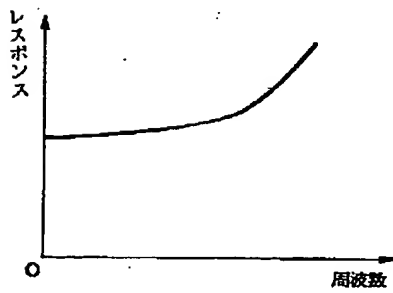
【図21】



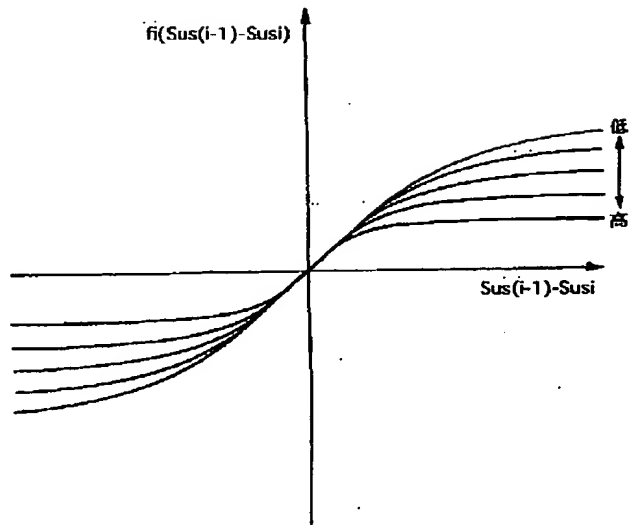
【図22】



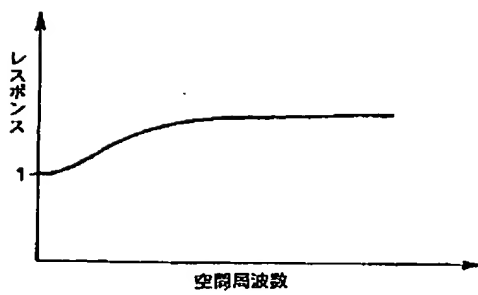
【図23】



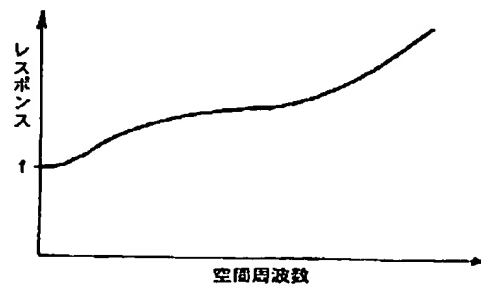
【図24】



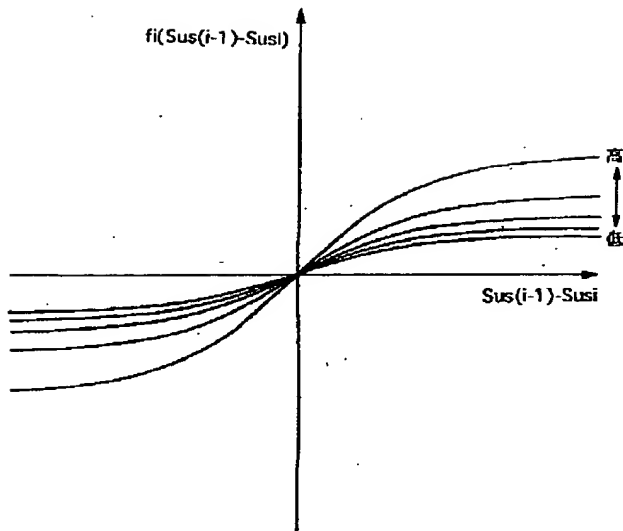
【図32】



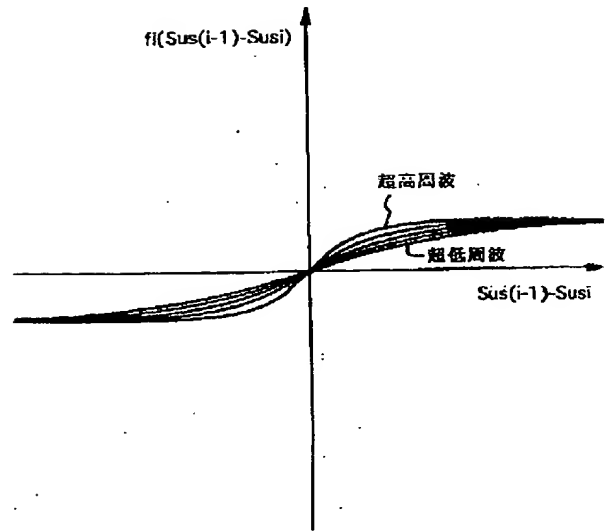
【図33】



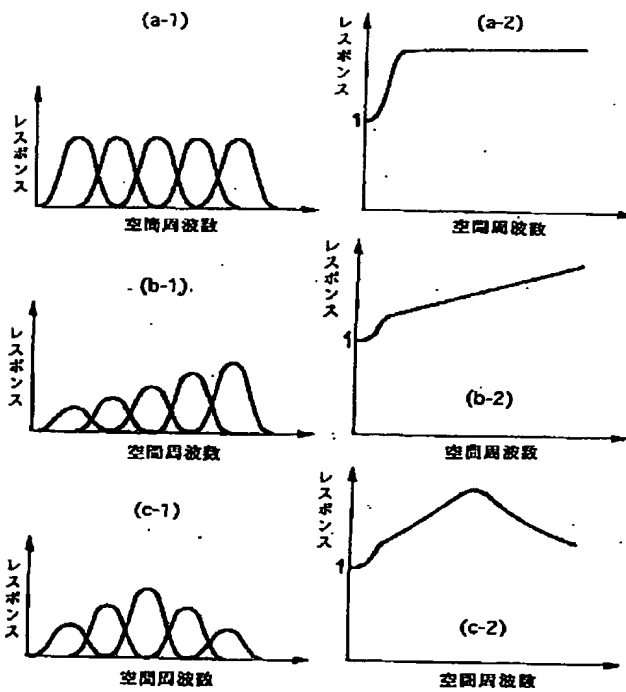
【図25】



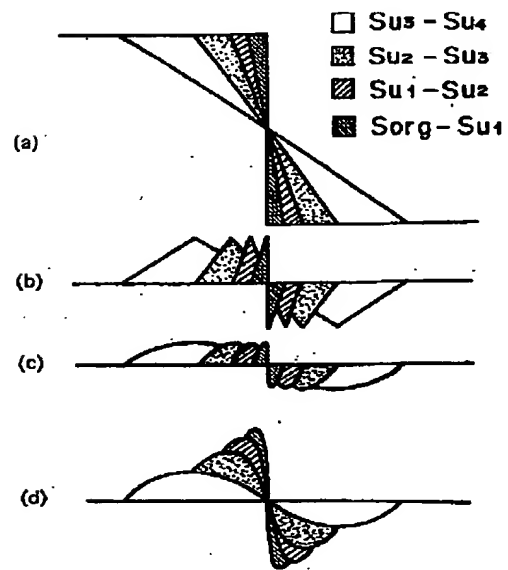
【図26】



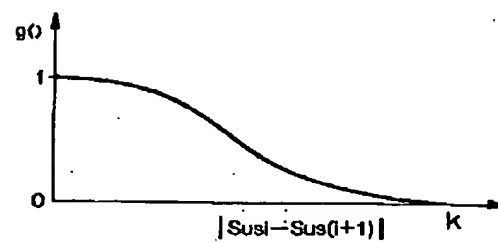
【図27】



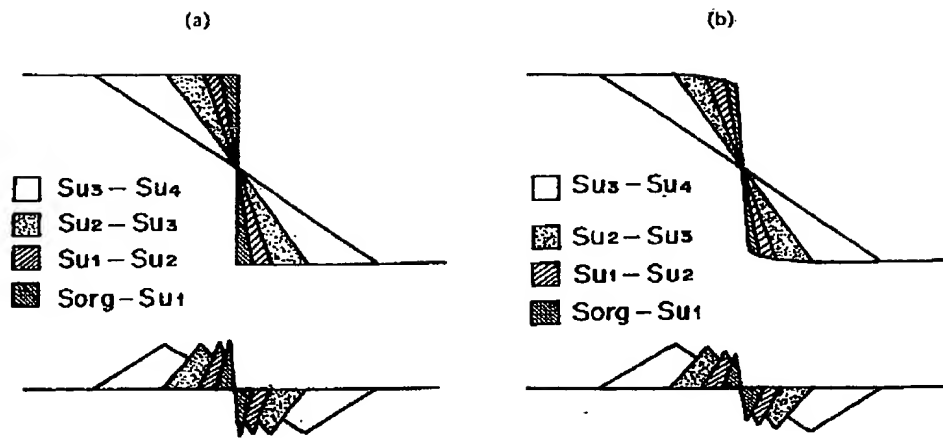
【図28】



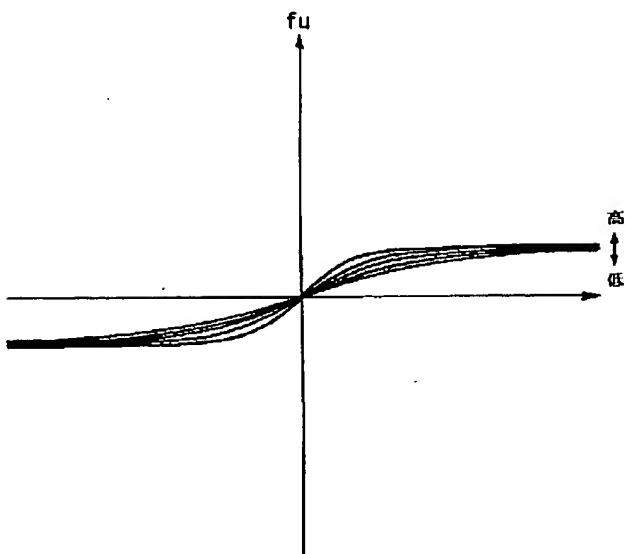
【図35】



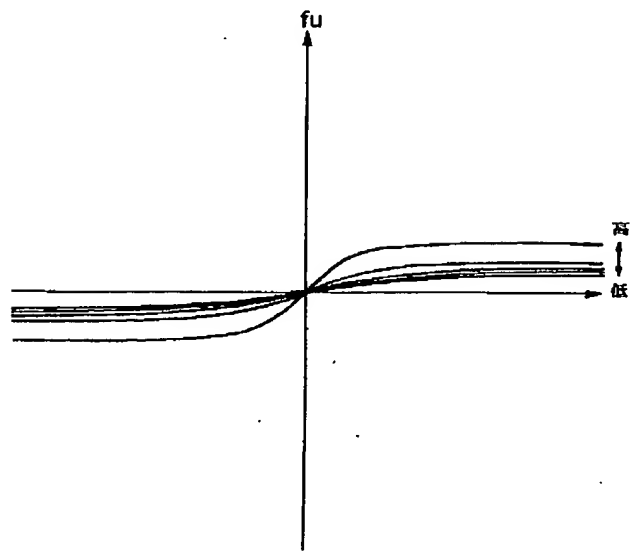
【図29】



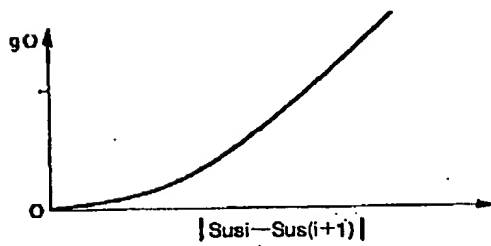
【図30】



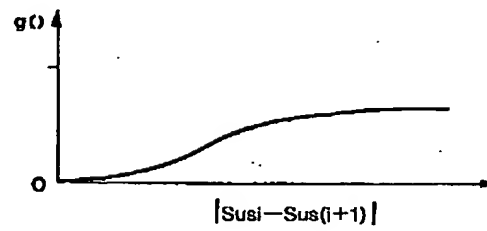
【図31】



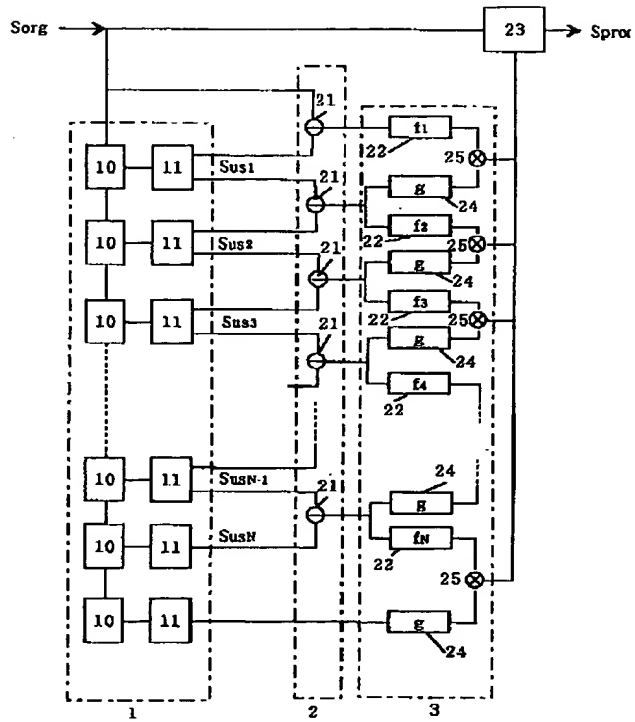
【図39】



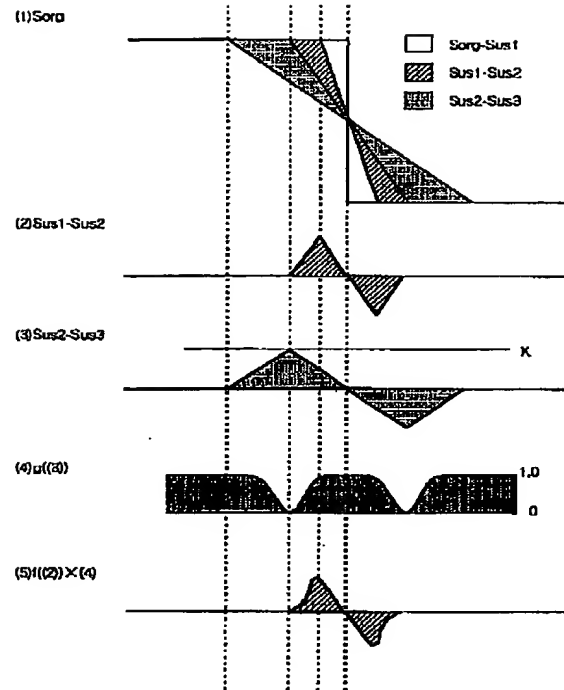
【図40】



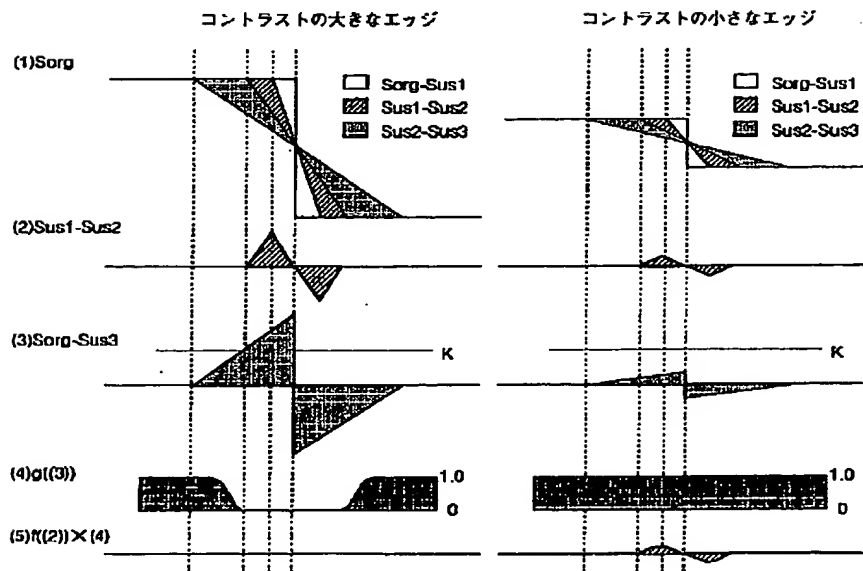
【図34】



【図36】

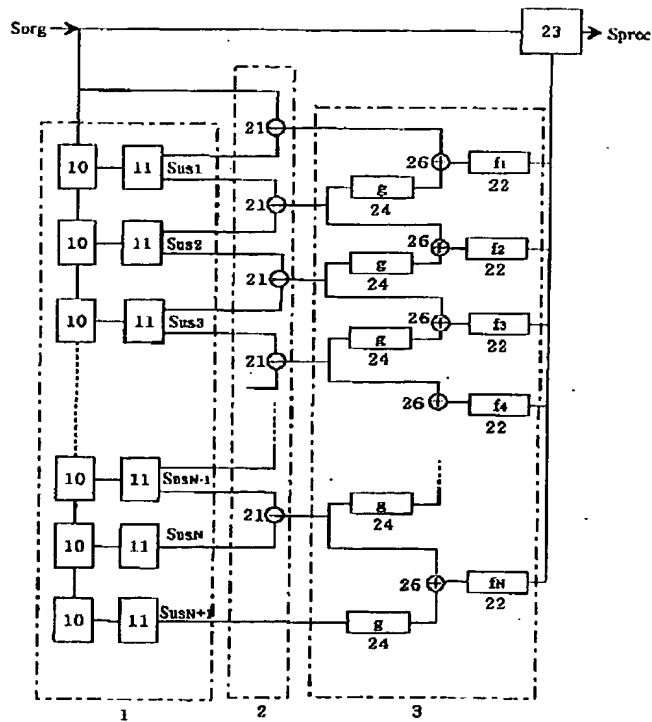


【図37】

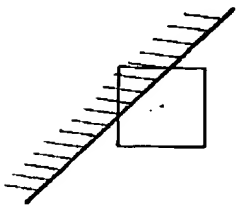




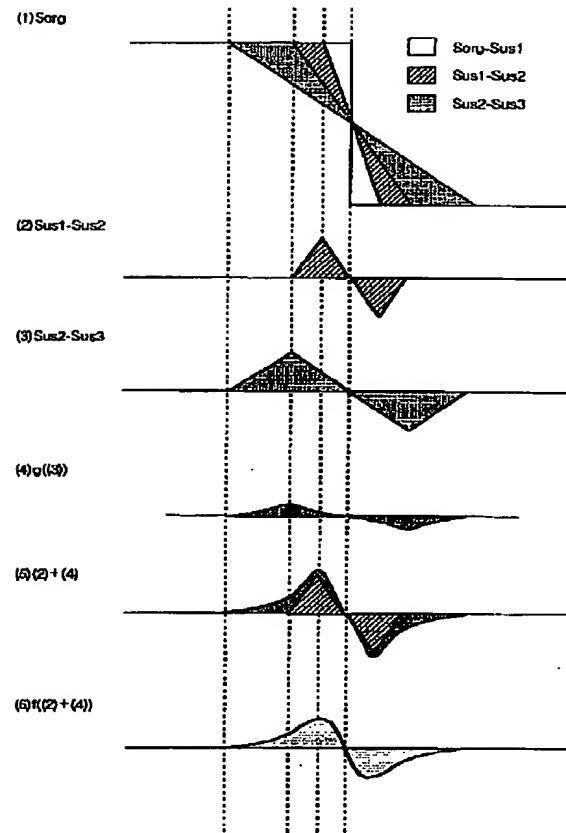
【図38】



【図42】



【図41】



フロントページの続き

(31) 優先権主張番号 特願平8-169063  
 (32) 優先日 平8(1996)6月28日  
 (33) 優先権主張国 日本(JP)

(31) 優先権主張番号 特願平8-169064  
 (32) 優先日 平8(1996)6月28日  
 (33) 優先権主張国 日本(JP)  
 (31) 優先権主張番号 特願平8-169065  
 (32) 優先日 平8(1996)6月28日  
 (33) 優先権主張国 日本(JP)